

平成30年度 第3回東区協議会次第

日時：平成30年6月29日（金）午後1時30分から

会場：東区役所 3階 31、32会議室

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

(1) 協議事項について

浜松市図書館ビジョン（案）パブリックコメントの実施について【中央図書館】

(2) 地域課題について

東区協議会委員会活動の報告について

4 その他

(1) 東区の取り組み

(2) その他

(3) 7月の開催予定 平成30年7月25日（水）午後1時30分から

会場：東区役所 3階 31、32会議室

5 閉会

第9号様式

区 協 議 会

区 分	<input type="checkbox"/> 諮問事項 <input checked="" type="checkbox"/> 協議事項 <input type="checkbox"/> 報告事項		
件 名	浜松市図書館ビジョン（案）パブリックコメントの実施について		
事業の概要 （背景、経緯、 現状、課題等）	<p>【目的】 知の情報拠点としてのさらなる価値を創出するよう、昨今の図書館を取り巻く動向及び市民ニーズを踏まえ、未来の図書館像について方向性を示す新たな図書館ビジョンを策定する。</p> <p>【背景】 平成20年度に策定した「浜松市立図書館のあり方」に基づき施策を推進してきたが、策定から10年が経過し、図書館に対する市民ニーズも高度化・多様化している。</p> <p>【課題】 今後、将来にわたり、より良い市民サービスを継続していくためには、時代の変化に対応した柔軟な図書館運営が必要となっている。</p>		
対象の区協議会	全区協議会		
内 容	<p>○概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜松市総合計画の理念に基づき、市民ワークショップや市民アンケートをもとに図書館から市民への3つの約束を示し、基本理念として4つのキーワードにより「市民の図書館未来宣言」を掲出 ・未来宣言実現のための目指す方向性及び取り組み内容を体系化 <p>【図書館から市民のみなさんへの約束】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館は ・あなたと『困った』を解決します。 ・あなたと『うれしい』を育てます。 ・あなたと『楽しい』を見つけます。 <p>【市民の図書館未来宣言】 4つのキーワード</p> <p>「いかす」「はぐくむ」「つながる」「つくる」</p> <p>○案の公表及び意見募集期間 平成30年6月15日（金）～7月17日（火）</p> <p>○案の公表先</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央図書館、地区図書館、市政情報室、区役所、協働センターなどにて配布 ・市ホームページ http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp 		
備 考 （答申・協議結果を得たい 時期、今後の予定など）	市の考え方公表時期（予定）	平成30年10月	
	施行時期	平成30年11月	
担当課	中央図書館	担当者	高瀬 理子 電話 456-0234

必要に応じて、記入枠の拡大や資料等の添付をしてください。

浜松市図書館ビジョン（案）【概要】

1 ビジョンの目的

近年、少子・高齢化による人口構造の変化、高度情報化の著しい発展や地域コミュニティ機能の変化により、市民の生活環境が変わるなか、暮らしの中の身近な情報拠点として、図書館に対する市民ニーズも、高度化・多様化しています。

「浜松市図書館ビジョン」は、こうした時代の変化に柔軟に対応し、知の情報発信の拠点として、質の高いサービスを持続的に提供していくために、未来の図書館像について方向性を示し、その実現に向けた施策を進める指針として策定するものです。

2 ビジョンの位置付け

浜松市総合計画「浜松市未来ビジョン」を上位計画とし、計画期間を概ね10年間とします。策定後の図書館を取り巻く環境・社会情勢の変化などにより、必要が生じた場合には、適宜見直しを図ることとします。

3 ビジョンの背景

- ・市民の生活様式の変化に伴い、図書館へのニーズが高度化・多様化
- ・時代の変化に対応した柔軟な図書館運営の必要性
- ・平成20年度「浜松市立図書館のあり方」から10年が経過

4 ビジョンの基本理念

図書館のミッションとして市民へ3つの約束を示し、基本理念を「図書館未来宣言」として4つのキーワードにより、今後の方向性と取り組み内容を体系化しています。

◎図書館から市民のみなさんへの約束

あなたと『困った』を解決します。『うれしい』を育てます。『楽しい』を見つけます。

◎基本理念「市民の図書館未来宣言」

- 〈いかす〉 わたしは、毎日の生活を潤すために図書館機能を活用します
- 〈はぐくむ〉 わたしは、図書館で『知る』ことを楽しみ、地域の中で成長します
- 〈つながる〉 わたしは、図書館で『人』と『情報』と『地域』とつながります
- 〈つくる〉 わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります

5 スケジュール

- ・平成30年 6月15日
～7月17日 パブリックコメントの実施（案の公表、意見募集）
- ・平成30年 6月下旬 各区協議会説明
- ・平成30年 10月 パブリックコメント実施結果及び市の考え方公表

現状と課題

1 施設

《現状》・23館1分室により、地域に根ざした図書館サービスを展開
《課題》・質の高いサービス提供と施設保持のため、施設のあり方を検討

2 管理運営

《現状》・開館時間の延長、開館日の拡大、指定管理者制度の導入により、市民サービス向上
《課題》・中央図書館＝全館マネジメント力の充実
・地区図書館＝地域実情に合った情報発信とコミュニティ形成

3 資料

《現状》・蔵書数約235万冊（市民1人あたり2.95冊＝政令市第2位）
・デジタルアーカイブ公開、電子図書試行
《課題》・多様な資料の収集と効果的な提供

4 図書館サービス

《現状》・本の貸出だけでなく、様々なサービスを提供
（ブックスタート、各種講座、音訳・点訳、多文化サービス等）
《課題》・「人と情報」だけでなく、「人と人」「人と地域」を結ぶ機能

5 レファレンス（調べもの）サービス

《現状》・インターネット普及により受付件数は減少傾向
・図書館ならではのより専門的な情報が求められる
《課題》・適切な情報提供

市民
ニーズの
把握

市民アンケート

1 広聴モニターアンケート

《図書館の望まれる機能》
・貸出機能の充実 ・ゆったりできる
・落ち着いて過ごせる

2 図書館利用に関するアンケート

・総合評価で約8割の市民が『満足』

3 『市民への約束』評価月間アンケート

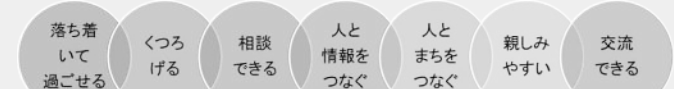
・5点満点中4.47点の評価
《意見》・文化を守る体制の維持
・ICTを活用した図書館システムの高度化

市民ワークショップ

いっしょに考えませんか？
図書館の“未来”

- ・2017年7月～9月（計4回）実施
- ・参加者数＝延べ約130人（高校生～60歳代）
- ・内容＝まち歩きや意見交換を通じ、「私たちごと」として図書館の役割を考える

～ “私たち”がほしい図書館は ～



浜松市図書館ビジョン(案)

に対するご意見をお待ちしています！

「パブリック・コメント制度」とは、市が計画や条例などを策定するときに、案の段階で市民の皆さんに公表し、ご意見、ご要望などを聴きながら最終的な案を決定する手続きのことをいいます。

浜松市では、平成15年4月から、この制度を導入しています。



1. 「浜松市図書館ビジョン(案)」とは

近年、少子・高齢化による人口構造の変化、高度情報化の著しい発展や地域コミュニティ機能の変化により、市民の生活環境が変わる中、図書館に対する市民ニーズも高度化・多様化しています。「浜松市図書館ビジョン」は、こうした時代の変化に柔軟に対応し、知の情報拠点として質の高いサービスを持続的に提供していくために、未来の図書館像について方向性を示し、その実現に向けた施策を進める指針として策定するものです。

2. 案の公表期間及び意見募集期間

平成30年6月15日(金)～平成30年7月17日(火)

3. 案の公表先

中央図書館、地区図書館、市政情報室、区役所、協働センター、市民協働センター(中区中央一丁目)、パブコメPRコーナー(市役所本館1階ロビー)にて配布

浜松市ホームページ(<http://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp>)に掲載

【トップページ→ご意見・お問い合わせ→パブリック・コメント制度】

4. 意見の提出方法

意見書には、**住所、氏名または団体名、電話番号を記入**して、次のいずれかの方法で提出してください。

(意見書の様式は特に問いませんが、参考様式を添付しています。なお、意見は浜松市ホームページ上にある意見入力フォームからも直接提出できます。)

①直接持参	中央図書館まで書面で提出
②郵便【はがき、封書】 (最終日の消印有効)	〒430-0947 浜松市中区松城町214-21 中央図書館あて
③電子メール	chuo@city.hamamatsu.shizuoka.jp
④FAX	053-453-2324 (中央図書館)

5. 寄せられた意見の内容及び市の考え方の公表

お寄せいただいたご意見の内容は、本市の考え方とあわせて、平成30年10月に公表します。公表先は案の公表先と同じです。

6. 問い合わせ先

市民部中央図書館(TEL 053-456-0234)

下記の資料をご覧のうえ、ご意見をお寄せください

●パブリック・コメント実施案件の概要

●浜松市図書館ビジョン（案）

・市民の図書館未来宣言	P 1
・目指す方向性と実現するための施策	P 2～P 17
・資料編	P 19
体系図	P 21
現状と課題	P 23～P 29
アンケート結果	P 31～P 44
市民ワークショップ記録	P 45～P 49
図書館協議会	P 51

●意見提出様式（参考）

パブリック・コメント実施案件の概要

案件名	浜松市図書館ビジョン（案）
趣旨・目的	時代の変化に柔軟に対応し、知の情報拠点として質の高い図書館サービスを持続的に提供していくために、未来の図書館像について方向性を示し、その実現に向けた施策を進める指針として「浜松市図書館ビジョン」を策定する。
策定（見直し）に至った背景・経緯	近年、少子・高齢化による人口構造の変化、高度情報化の著しい発展や地域コミュニティ機能の変化により、市民の生活環境が変わるなか、図書館に対する市民ニーズも、高度化・多様化している。 今後、将来にわたり、より良い市民サービスを継続していくためには、時代の変化に対応した柔軟な図書館運営が必要となっている。
立案した際の 実施機関の考え方 及び論点	知の情報拠点としての新たな価値を創出するよう、昨今の図書館を取り巻く動向及び市民ニーズを踏まえた新たなビジョンを策定し、これに基づき施策を推進していく。
案のポイント （見直し事項など）	<p>○浜松市総合計画の理念に基づき、市民ワークショップや市民アンケートをもとに図書館から市民への3つの約束を示し、基本理念として4つのキーワードにより「市民の図書館未来宣言」を掲出</p> <p>○未来宣言実現のための目指す方向性及び取り組み内容を体系化</p> <p>・図書館から市民のみなさんへの約束</p> <p>図書館は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたと『困った』を解決します。 ・あなたと『うれしい』を育てます。 ・あなたと『楽しい』を見つけます。 <p>○「市民の図書館未来宣言」及び取り組み内容</p> <p>【िकास】</p> <p>わたしは、毎日の生活を潤すために図書館機能を活用します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT（情報通信技術）を活用した図書館サービス ・貸出、返却サービスの利便性向上 ・多文化サービスの推進 ・多様なニーズに対応した環境づくり <p>【はぐくむ】</p> <p>わたしは、図書館で『知る』ことを楽しみ、地域の中で成長します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の読書環境の充実～『子ども読書活動推進計画』の促進～ ・子育て支援サービスの充実 ・ライフステージ、ライフスタイルに応じた資料・情報提供と講座等の開催 ・多様な資料の収集、提供

	<p>【つながる】</p> <p>わたしは、図書館で『人』と『情報』と『地域』とつながります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティにおける市民との協働、連携 ・課題解決支援サービスの充実 ・政策立案支援サービスの推進 ・地域、歴史資料の収集、保存、活用 ・自治体、企業、各種団体との連携 <p>【つくる】</p> <p>わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に応じた図書館運営 ・図書館マネジメントの充実 ・専門的職員の育成、確保 ・図書館プロモーションの充実 ・図書館評価 <p>○資料編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体系図 ・現状と課題 ・アンケート結果 ・市民ワークショップ記録 ・図書館協議会 									
<p>関係法令・ 上位計画など</p>	<p>浜松市総合計画《浜松市未来ビジョン》</p>									
<p>計画・条例等の 策定スケジュール (予定)</p>	<table border="0"> <tr> <td>平成30年</td> <td>6月15日</td> <td>案の公表、意見募集開始</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月17日</td> <td>意見募集終了</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月</td> <td>意見募集結果及び市の考え方を公表</td> </tr> </table>	平成30年	6月15日	案の公表、意見募集開始		7月17日	意見募集終了		10月	意見募集結果及び市の考え方を公表
平成30年	6月15日	案の公表、意見募集開始								
	7月17日	意見募集終了								
	10月	意見募集結果及び市の考え方を公表								

【図書館から市民のみなさんへの約束】

図書館は…

- 👉 あなたと『困った』を解決します。
- 👉 あなたと『うれしい』を育てます。
- 👉 あなたと『楽しい』を見つけます。

図書館は、ひとりひとりの人生に寄り添い、昨日より今日、今日より明日、あなたが『少し幸せ』になることを願っています。

それぞれの『少し幸せ』が重なりあって、浜松市の『たくさんの幸せ』が創られていきます。

目次

市民の図書館未来宣言	1
------------	---

目指す方向性と実現するための施策	2
------------------	---

《いかす》	2
-------	---

～未来のショート・ストーリー

「忙しい毎日の中の、大切なわたしの時間。」～

実現のために、図書館はこうします

- 1 ICT（情報通信技術）を活用した図書館サービス 3
- 2 貸出、返却サービスの利便性向上 4
- 3 多文化サービスの推進 4
- 4 多様なニーズに対応した環境づくり 5

《はぐくむ》	6
--------	---

～未来のショート・ストーリー

「図書館を通じて、変化していく自分を楽しむ。」～

実現のために、図書館はこうします

- 1 子供の読書環境の充実
～『子ども読書活動推進計画』の促進～ 7
- 2 子育て支援サービスの充実 7
- 3 ライフステージ・ライフスタイルに応じた資料・情報提供と講座等の開催 8
- 4 多様な資料の収集・提供 9

《つながる》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

～未来のショート・ストーリー

「まちの元気は、“つながる”図書館から。」～

実現のために、図書館はこうします

- 1 地域コミュニティにおける市民との協働、連携・・・・・・・・ 11
- 2 課題解決支援サービスの充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 3 政策立案支援サービスの推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 4 地域・歴史資料の収集、保存、活用・・・・・・・・・・・・ 12
- 5 自治体、企業、各種団体との連携・・・・・・・・・・・・ 13

《つくる》・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

～未来のショート・ストーリー

「図書館の未来は、わたしたちがつくる。」～

実現のために、図書館はこうします

- 1 地域の実情に応じた図書館運営・・・・・・・・・・・・ 15
- 2 図書館マネジメントの充実・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 3 専門的職員の育成、確保・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- 4 図書館プロモーションの充実・・・・・・・・・・・・ 16
- 5 図書館評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

資料編

- 1 体系図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 2 現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 3 アンケート結果・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
- 4 市民ワークショップ記録・・・・・・・・・・・・ 45
- 5 図書館協議会・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

市民の図書館未来宣言

《いかす》

わたしは、毎日の生活を潤すために
図書館機能を活用します

《はぐくむ》

わたしは、図書館で『知る』ことを
楽しみ、地域の中で成長します

《つながる》

わたしは、図書館で『人』と『情報』
と『地域』とつながります

《つくる》

わたしたちの図書館を、未来に向け
てつくります

目指す方向性と実現するための施策

《いかす》

わたしは、毎日の生活を潤すために図書館機能を活用します

未来のショート・ストーリー

忙しい毎日の中の、大切なわたしの時間。

我が家は夫婦共働き、子供たちもまだまだ手がかかる年頃で、目が回るような日々を送っている。図書館にでかけて、居心地のいい館内でゆったりと過ごす時間が大好きだけれど、今はなかなかその余裕が持てていない。

仕事や子育てなどで知りたいことがあって、参考になる本はないかな？と思ったとき、家事が一段落した時間に利用するのが、図書館のホームページ。蔵書検索で、見えそうな本を見つけたら、その場で予約。職場近くの図書館を指定すれば昼休みに受取りができる。予約した本が用意できるとメールで知らせてくれて、夜遅い時間でも、予約本受取り専用のスポットでセルフ貸出しができるので便利。借りた本を期限内に返すのがちょっと面倒だけど、返却期日が近づくとメールで知らせてくれるし、近所のスーパーなど図書館以外の場所にも返却スポットがあちこちに設置されているので、返し忘れたことがないのが密かな自慢。

ホームページの新作図書案内や検索で偶然見つけた本から新たな興味も広がって、忙しい中にも楽しみがちょっと増えた感じがする。

それから、最近のお気に入りには電子図書※。英語の電子図書は音声で聴けるものもあるので、こっそり通勤のバスの中で英語の勉強を始めている。返却期日になると自動的に返却されるから、返す手間も省ける。活字の図書と使い分けて借りるのが私流。時間もお金も節約できていて、我ながら図書館をうまく活用していると思う。

※電子図書：書籍を電磁的に記録し、パソコンやスマートフォンなどを利用して視聴するもの



実現のために、図書館はこうします

- 情報通信技術(ICT)をいかした、安全、確実な図書館システムを構築し、図書館ネットワークや貸出しからレファレンスまでのすべての図書館サービスの適正化、効率化を図ります。
- 誰もが利用しやすい、ユニバーサルデザインに配慮したきめ細かなサービスを提供します。
- 多様なニーズを持った利用者にとって、図書館がより身近で温かく親しみやすい居場所となるような環境づくりに努めます。

1 ICT(情報通信技術)を活用した図書館サービス

急速に普及しているICT(情報通信技術)を積極的に活用し、市民が必要な時、必要な情報を的確に得られるサービスを提供します。現行サービスの利便性を高めるとともに、新たなサービスの展開を目指します。

《事業・取組》

- 1 利用者ニーズに寄り添った図書館システムの利便性向上
- 2 図書館ホームページやSNS等を使った市民へのタイムリーで積極的な発信
- 3 図書館内ICT環境の整備

*** みなさんからの意見 ***

- 貸出機能の充実。(電子図書=47.3%が希望)
(広聴モニターアンケートで回答が多かったもの)
- 利用者カードのかわりになるアプリがあったらいい。
(市民ワークショップ)
- 自分の貸出履歴が見られるとよい。
- Wi-Fi、PCを導入してほしい。
- スマートフォン用のホームページがほしい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)

広聴モニター：市内在住の広聴モニターを対象に2回のアンケートを実施。概要は資料編に掲載。

2 貸出、返却サービスの利便性向上

図書館サービスの根幹である資料の貸出、返却サービスのさらなる利便性向上を図ります。これまで時間的・物理的な制約により図書館利用が困難であった市民を潜在的な利用者層と捉え、新たなニーズの掘り起こしを目指します。また、高齢世代・障がいのある人の視点に立った環境整備を行います。

《事業・取組》

- 1 自動車文庫(BM=ブックモバイル)※等の拡充
- 2 図書館以外の施設等にブックポストを設置

※自動車文庫(BM:ブックモバイル)：書架を装備した車両により学校や福祉施設等を訪問し、書籍の貸出しや読書相談などを行うサービス

*** みなさんからの意見 ***

- 図書館に行く時間がない。
- 開館時間が自分のライフスタイルにあわない。
- スーパー、コンビニなどよく行く場所へ予約資料受け取り場所・返却ポストを設置してほしい。
(広聴モニターアンケートで回答が多かったもの)
- 仕事帰りに立ち寄れるよう、閉館時刻を遅くしてほしい。
- 貸出期間を長くしてほしい。
- 予約した本をなかなか借りられないので、置き期間・貸出期間を短くしてほしい。

(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)

3 多文化サービスの推進

地域のニーズをもとに外国語資料・外国に関する資料、日本語学習に関する資料を収集、提供し、日本語以外を母語とする人たちや、地域で日本語教育を行うなど多文化共生社会を支える人たちへのサービスを推進します。外国人の持つ多様性や豊かな文化性を街の活力としていかし、日本人市民との相互理解を深め、誰もが住みやすい多文化共生社会の実現を目指します。

《事業・取組》

- 1 電子図書等を活用した多言語資料や日本語学習資料の充実と環境整備
- 2 通訳付ブックスタート、多言語でのおはなし会等の多文化サービス行事の充実

*** みなさんからの意見 ***

- 英語絵本の読み聞かせ回数を増やしてほしい。
- 外国人にも利用しやすいような工夫をしてほしい。
- 英語多読の資料を多くの館においてほしい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)
- 色々な国ごとの文化や地理などに関する本をコーナーにまとめて、それぞれの国の魅力がわかるようにPR。言語もバラエティ豊かな、世界地図を広げたような図書館に。

(市民ワークショップ)

4 多様なニーズに対応した環境づくり

利用者がそれぞれのニーズに沿って快適に図書館を利用できるよう、レイアウト等の工夫により、居心地のよい環境づくりに努めます。

《事業・取組》

- 1 親子で気兼ねなく利用できるよう、児童書エリアの改善
- 2 サイレントスペース、グループ利用スペースの設置
- 3 飲食コーナーの設置、改善
- 4 高齢世代や障がいのある人が利用しやすい環境づくり

*** みなさんからの意見 ***

- 飲食できるスペースや談話できるスペースがほしい。
- ゆったりと読めるソファなどの座席がほしい。
- 館内でクラシックやイージーリスニングを流してはどうか。
- 静かな環境の維持に努めてほしい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)
- 子供が騒いでも大丈夫なエリアがあるとよい。
- いらなくなった本を集めた図書スペースで飲食もできるようにすれば、本を汚す心配をせずにくつろぎやすくなる。

(市民ワークショップ)

《はぐくむ》

わたしは、図書館で『知る』ことを楽しみ、地域の中で成長します

未来のショート・ストーリー

図書館を通じて、変化していく自分を楽しむ。

定年を迎え自分の時間が持てるようになったので、じっくり広報紙をチェックしたら、子供たちに絵本を読み聞かせる図書館のボランティアの講座を発見。軽い気持ちで受講したら、絵本の世界の奥深さにすっかり魅了されてしまった。「本」が子供の「生きる力」を育むことを知り、子供と本をつなぐ活動にやりがいを感じている。読み聞かせを通じた、子供たちや親子との交流は思いのほか楽しい。

図書館には、子育て情報コーナーがあったり、親子が交流できるイベントや子供連れで参加できる色々な講座が開催されていたり……と、子育てを応援する雰囲気がある。自分も、ボランティアとして次世代のために役立っているのだと思えて、ちょっと嬉しい。

ボランティアを始めてから、様々な人が図書館で学んでいることを知った。郷土の歴史、作家や文学、絵本などの勉強会もあるらしい。グループでなく、個人で図書館の本などを使って学びを深めている人もいるようだ。図書館には「調べもの相談」のサービスがあるから、困ったときは相談できるし。

「学ぶ」などとかしこまらなくても、図書館で行っている展示やイベント、講座などに参加してみると、「ちょっとした発見」「ちょっとした出会い」がある。図書館には、年齢を重ねる中でいきいきと過ごすための“きっかけ”が用意されていると思う。この間参加した講座で、受講生の何人かと意気投合。小さな勉強会を立ち上げ、定期的に図書館に集まることにした。いつの日か、仲間と一緒に勉強の成果を発信したり、地域で役立たせたりできたら……と密かに目標をたてている。「ちょっとした」の積み重ねで、またひとつ成長できる気がする。



実現のために、図書館はこうします

- 未来の担い手である子供たちの「育ち」を支える読書環境づくりとともに、市民ひとりひとりの生涯にわたる自主的な学習活動を支援します。
- 人々の暮らしや地域づくりに役立つ様々な情報を集め、よりわかりやすく提供できるように、課題解決支援の機能充実を図ります。
- 多様化する情報ニーズや地域特性に応える蔵書の構築を目指します。

1 子供の読書環境の充実～『子ども読書活動推進計画』の促進～

公共図書館における児童サービスは、「すべての子供に読書の楽しさと喜びを提供すること」、「子供が《よりよく生きる力》を身につけることができるよう、本との出会いを中心に援助すること」をその目的としています。浜松市立図書館においても、平成23年度に策定した「第2次浜松市子ども読書活動推進計画」に基づき、子供と本を結ぶための様々な取組を行ってきました。今後はそれらの取組をいっそう充実させ、子供及び子供を取り巻く大人たちに向けた働きかけを通じて、子供たちの《よりよく生きる力》を育むための読書活動をいっそう推進します。

＜事業・取組＞

- 1 「第2次浜松市子ども読書活動推進計画」の推進
- 2 ニーズに応じた実施方法の検討等、ブックスタート事業の推進
- 3 授業で活用できる資料と学校図書館支援事業の充実
- 4 図書館ホームページの「児童サービス」ページ等Webを使った情報発信
- 5 子供読書活動推進のための読み聞かせボランティア等の人材育成と連携

2 子育て支援サービスの充実

子供たちが地域で伸びやかに育つためには、子育てをする人が心のゆとりを持ち、子育てがしやすく楽しいと感ずることができるよう、周囲のサポートが必要です。図書館が子育てをする人にとって情報の拠り所となり、地域の人とつながることができる場所となるよう、資料収集と環境整備に努めます。

＜事業・取組＞

- 1 子育てに関する図書資料等、子育て支援情報の提供
- 2 子育て世代が利用しやすく、居心地よく過ごせる環境づくり、交流支援
- 3 子育て関係団体との連携

*** みなさんからの意見 ***

- いつ行っても子供が3人くらい集まったら、誰かがよみきかせをしているとよい。
- 子供用DVDの視聴コーナー、おもちゃや遊具がおいてある図書館。
- 子育て本の充実、保健所との連携。
- ベビーカーが使いやすい、授乳室がある。
- 子育て広場、保護者同士の交流・おしゃべりができる場所がある。
(市民ワークショップ)
- 子供向けサービスを利用して、自分では選ばないような絵本にたくさん出会えた。子供との触れ合いに役立っている。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)

3 ライフステージ・ライフスタイルに応じた資料・情報提供と講座等の開催

図書館の持つネットワークや資料を活用し、利用者の多様なニーズに応じた、生活の質を高める各種講座や講演会を実施します。また、楽しみや生きがいづくりのきっかけとなる講座と資料の提供を行うなど、市民ひとりひとりの多様な学習活動に幅広く対応できる体制を整備します。

《事業・取組》

- 1 シニア世代向けに、社会とつながる“健康・医療”等のニーズに沿った講座や資料の提供
- 2 ビジネス世代向けに、ビジネス支援や生活充実のための資料・情報提供、講座開催
- 3 子育て世代向けに、親子で本や図書館に親しむきっかけとなる講座やイベントの実施
- 4 活字離れ・図書館離れが進む中学生・高校生が図書館に足を運ぶきっかけづくり
- 5 ライフスタイルに応じた資料の提供、講座等の実施

*** みなさんからの意見 ***

- 年齢や裕福であるかないかなどの枠を超えて、学べる環境を整えてくれたら、この街の教育や文化も素敵な方向へ変わっていけるのでは。
- 講演会の企画を市民から募集してほしい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)

4 多様な資料の収集・提供

暮らしを豊かにする資料、学ぶ意欲に応える資料、課題解決に役立つ資料、地域特性に沿った資料、また、高齢世代や障がいのある人、日本語以外を母語とする人が活用できる資料など、市民ニーズの把握に努めながら、多様な資料の収集・提供を行います。さらに、コーナー設置やテーマ展示、調べ案内やブックリストの作成、図書館だよりやホームページ等での資料情報の発信などを通じて、利用者が資料にアクセスしやすい環境を整え、図書館資料を活用できる仕組みを充実します。

《事業・取組》

- 1 利用者アンケートの実施、分析、統計データの分析による利用者ニーズの把握
- 2 高齢世代や障がいのある人、日本語以外を母語とする人が活用できる資料の収集、提供
- 3 効果的なコーナー設置、テーマ展示の充実など資料にアクセスしやすい環境づくり

*** みなさんからの意見 ***

- 各図書館の蔵書の傾向に合った展示やアピール。
- 実用書（旅行・料理・医療、健康）の新しい本がみたい。
- 雑誌の種類と冊数の充実。
- 英語以外の言語の本をもう少し定期的に購入して増やしてもらいたい。
- 同一の本は上限数を設けて購入し、ほかの本の購入に充てるほうがよい。
- 予約数が多い本は冊数も多く購入してほしい。
- 一般のレンタルショップにないCD/DVDを充実してほしい。
- 大活字の本を好んで読んでいます。
- お年寄り向けの紙芝居をもっと増やしてほしい。

（浜松市立図書館利用に関するアンケート調査）

- 『〇〇の資料ではどこにも負けない』というようなプライドを持って収集することで、図書館は生き残っていけるのではないか。

（市民ワークショップ）

《つながる》

わたしは、図書館で『人』と『情報』と『地域』とつながります

未来のショート・ストーリー

まちの元気は、“つながる” 図書館から。

代々この商店街に店を構えて80年。地域に愛されてやってきたけど、ちょっとずつお客さんが減っているし、シャッターを閉じてしまった店舗もちらほら。ここは自分たち若い世代が盛り上げていかないと！でも、ここに来る人に何が求められているんだろう？これまで縁のなかった人たちを呼び込むための次の一手は何だろう？

他の店主さんの「図書館がビジネス支援や課題解決の手伝いをしているらしいよ」の一言がきっかけとなり、商店会長と一緒に図書館へ相談に。司書が紹介してくれたデータベースを眺めていると、なるほど、この街の人口動態や年齢構成、消費行動の変遷がよく分かる。

「こんな資料もありますよ」と司書が紹介してくれたのは、ビジネスやまちづくりの専門誌。中には、空き店舗をリノベーションしてアーティストの活動拠点にしたり、コミュニティスペースに活用したりと、貴重なヒントが盛りだくさん。「あの街の事例は参考になるね！」と、会長は早速先進地の視察を提案。頭の中には、街のみんなで創り上げるバラ色の商店街の風景が広がってくる。視察先の詳しい情報も、そのまま図書館で調べる事にした。

ふと図書館内を見渡すと、自分たち以外にもデータベースや本で調べたり、司書に相談したりしているグループがある。図書館内にはコワーキング※やカラーニング※、市民の交流スペースもあり、多くの人たちが利用していて、活気を感じる。聞けば、自分たちのように地域の活性化を目指している団体や、地域のボランティア活動グループ、ビジネスに役立つ情報を求めている人たちなど、様々な人が利用しているとのこと。図書館の利用が縁で交流するようになった人たちが企画・運営するイベントも、時々図書館で開催しているという。

図書館で『人』と『情報』と『地域』がつながって、まちが元気になっていくんだな。

※コワーキング：場所を共用しながら、個人事業者等が独立した仕事を行うワークスタイル。異業種の者が交流することにより新たな価値観や発想が生まれる創造的空間となる

※カラーニング：場所を共用する利用者が、対話や議論を交えながら互いに教え合い、学び合う学習スタイル



実現のために、図書館はこうします

- 学校、家庭、地域住民と相互の連携協力を図り、「市民協働による、市民のための図書館」を目指します。
- 情報と人、人と人をつなぎ、新たな価値を創出する情報交流拠点を目指して、専門的な情報やノウハウを持つ様々な関係機関・団体等との連携を進めます。

1 地域コミュニティにおける市民との協働、連携

地域に身近な相談サービスや情報提供を行うコミュニティ機能を有した図書館として、地域住民の自主的・主体的な学習活動・交流の場となるべく、地域との連携を進めます。

《事業・取組》

- 1 市民が親しみやすい図書館の雰囲気づくり
- 2 地域情報の収集・提供と地域特性をいかした図書館サービスの充実
- 3 地域に根差したボランティアの育成と活動支援、協働

*** みなさんからの意見 ***

- 図書館にコミュニティスペースがあって、幅広く人と繋がることができれば、自分の知識や関心がさらに深まるはず。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)
- 図書館にまちの様々な情報を発信しているコーナーがあって、施設や場所、そこで活動している人の情報が紹介されていれば、新しいことを始めるきっかけになる。

(市民ワークショップ)

2 課題解決支援サービスの充実

身近な疑問から、法律や統計に関する調査まで、市民が図書館を積極的かつ自主的に活用できる環境づくりを目指します。また、関係機関との連携・協力体制のもと、広く仕事に関する課題解決支援サービスの充実を図ります。

《事業・取組》

- 1 商用データベース等を活用したレファレンスサービス※の充実、認知向上
- 2 専門家・専門機関を利用者に紹介するレフェラルサービス※の実施

※レファレンスサービス：利用者の求めに応じ、その調査相談等に対し図書館資料等を使って援助するサービス。

※レフェラルサービス：利用者の求めに応じ、求める資料・情報にアクセスできる地域内外の機関等を紹介するサービス。

*** みなさんからの意見 ***

- コワーキングスペースとしての展開を期待している。
- 専門家に調べものの相談ができるとよい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)

3 政策立案支援サービスの推進

政策決定や行政事務の執行など浜松市政運営に図書館の持つ力を役立てるため、必要な資料及び情報を積極的に収集し、的確に提供します。また、浜松市議会図書室との連携を進め、調査支援やレファレンスを通じ“ミニ国立国会図書館※機能”として、市議会議員の政策立案支援を行います。

※国立国会図書館：国内外の資料・情報を収集、保存することにより国会の活動を補佐するとともに、行政、司法及び国民に図書館サービスを提供している

《事業・取組》

- 1 市行政部局向け調査相談サービスや参考図書の紹介
- 2 市議会事務局、市議会議員向け図書館活用講座の実施、議員活動に役立つ資料の調査・提供
- 3 図書館での啓発活動や講座・イベント等、行政情報の発信、連携

4 地域・歴史資料の収集、保存、活用

本市の歴史や現状を記す貴重な資料である地域資料の積極的な収集、保存、提供を推進します。このため、重要な地域・歴史資料のデータベースの整理やデジタル化を推進するとともに、博物館等との連携、協力により、利用者の視点に立った、行政の組織を越えた公開方法や活用を構築します。市政に関する情報を収集・整理・提供し、住民自治の情報基盤施設としての機能を果たすために、関係部局との連携協力を努めます。

《事業・取組》

- 1 地域・歴史資料の収集・保存事業
- 2 浜松市文化遺産デジタルアーカイブ整備事業
- 3 MLA連携※の推進
- 4 オープンデータ※化の推進

5 公文書管理の適正化及び公文書館整備構想の推進

※MLA連携：博物館（Museum）・図書館（Library）・文書館（Archives）の連携のこと。それぞれの頭文字をとってMLAと呼ばれる。いずれも文化的情報資源を収集・蓄積・提供する公共機関であるという共通点を持ち、情報資源のアーカイブ化等の課題を共有していることから、近年、連携の重要性が認識されてきている。

※オープンデータ：機械判読に適したデータ形式で、二次利用が可能な利用ルールで公開されたデータ。

5 自治体、企業、各種団体との連携

多くの利用者が日々訪れる図書館のメリットをいかして、関係機関との連携により、新たな情報に出会う場を提供します。

《事業・取組》

- 1 地域団体や各関係機関との連携による図書館事業の充実
- 2 浜松市の広域行政政策と連動した図書館連携の検討

《つくる》

わたしたちの図書館を、未来に向けてつくります

未来のショート・ストーリー

図書館の未来は、わたしたちがつくる。

市内の大学に通っている。司書資格取得のための勉強をしていることもあって、図書館で開催された“図書館の未来”を考えるワークショップに参加してみた。本は大好きだし、図書館も使っていたけれど、こんなにじっくり図書館と自分たちのことを考えたのは初めて。これまで、図書館はあって当たり前だと思っていたし、どんな図書館がほしいのかなんて、考えたことはなかった。

ワークショップを通じて、普段なら話をしない世代や色々な社会的立場の人たちと話ができて面白かった。話してみたら、みんな図書館に期待していることがたくさんあって、びっくり！

「専門のスタッフにもっと相談をしたい」とか、「図書館で人と交流したい」とか、「子供が気楽に来られるように、賑やかな方がいい」とか、「そもそも、図書館は本が充実していなければ」とか。逆に「ひとりで気兼ねなくすごしたい」、「静寂を希望」、「本棚ばかりでなく、飲食やイベントのスペースを充実させて」などなど、本当に幅広い意見があった。

すべての人の希望が叶う図書館にするのは、とても難しい。それでも、「図書館でできること」はまだまだありそうだし、自分たち市民の意見やアイデアも役に立つんじゃないかな。

未来の図書館をつくっていくためには、みんなが「私ごと」じゃなくて「私たちごと」の立ち位置で考えるのが大切だと、ワークショップで知った。

図書館の未来は、わたしたちみんなでつくるんだ！

実現のために、図書館はこうします

- 市民の声を聞きながら、地域ごとの実情に合わせた図書館のあり方を検討します。
- 「知の拠点」としての図書館機能の充実を図るために、施設整備、専門的職員の育成、確保など、効率的、効果的な図書館経営を推進します。
- 市民に開かれた運営を目指し、図書館サービスの戦略的広報の推進など、プロモーション機能の充実を図るとともに、図書館評価の見直しを行います。

1 地域の実情に応じた図書館運営

平成17年の合併により、本市は都市部、周辺部、中山間地域からなる広大な市域を有しており、北遠地域においても旧市町村ごとに図書館が設置されていますが、少子高齢化や過疎化の進展等により今後の利用状況に大きな変動が見込まれます。利用者アンケートや市民ワークショップ等により、図書館に対する市民の意見を聞きながら、地域の特性や状況の変動を把握し、地域の実情に応じた図書館運営を行います。

また、浜松市立図書館が将来にわたり市民から求められる役割を果たしていくため、浜松市公共施設等総合管理計画に基づき、図書館機能と施設のあり方を考えます。

《事業・取組》

- 1 地域特性や図書館を取り巻く状況、利用状況を勘案した調査・研究ならびに中長期的な整備・保全計画の策定
- 2 図書館施設の他の施設との複合化、民間活力導入の検討

*** みなさんからの意見 ***

- 古い建物の図書館を新しくしてもらいたい。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)
- 図書館建替え等の計画があれば示してほしい。
(市長へのご意見箱)

2 図書館マネジメントの充実

図書館業務の効率化の観点から進めてきた指定管理者制度の導入については、現在は、平成28年に開館した都田図書館も含め16館1分室が指定管理者制度による運営となっており、地域との連携と市民サービスの向上を図ってきました。

今後は指定管理者制度等の適正な評価と、図書館サービスの質の維持向上に向けて、個々の図書館の役割を明確にし、中央図書館の全館マネジメント能力と、それぞれの図書館が役割を果たすための機能を充実させます。

《事業・取組》

- 1 市と指定管理者とのビジョンの共有、パートナーシップの充実
- 2 中央図書館と地区図書館の役割の明確化と、目的に応じた機能充実

3 専門的職員の育成、確保

選書、レファレンス、窓口業務等、各業務において図書館司書に求められる専門的能力をさらに向上させるとともに、図書館サービスの企画・運営能力を高めるため、計画的な図書館内研修を実施します。また、児童サービスやレファレンス専門研修等、外部の研修会にも積極的に職員を派遣します。

《事業・取組》

- 1 職員の資質・能力の向上
- 2 図書館司書の確保と専門性の向上

*** みなさんからの意見 ***

- 専門の職員を配置して、図書館自体の質の向上を目指してほしい。
- 職員により知識に偏りがある。
(浜松市立図書館利用に関するアンケート調査)
- もう少し踏み込んだ本の相談にのってくれたり、利用者同士がコミュニケーションを図る手助けもしてくれればよい。
(市民ワークショップ)

4 図書館プロモーションの充実

ソーシャルメディア、広報紙等を利用した戦略的・計画的な情報発信により、多くの市民に様々な図書館サービスの周知を図り、活用を促します。また、普段図書館を利用されない方へも、図書館が身近で生活に密着したものであるという認識を持ってもらえるよう働きかけを行います。

《事業・取組》

- 1 関係機関との連携による図書館事業の充実
- 2 広報戦略の作成
- 3 浜松市が開催するイベントにおける「おでかけ図書館」や「出前講座」の開催

5 図書館評価

本ビジョンの進行管理を行うため、年度ごとに図書館評価を行います。

《いかす》《はぐくむ》《つながる》《つくる》に区分して目標値を定め、年度終了後に自己評価及び図書館協議会における外部評価を実施します。また、利用者アンケート調査を継続的に行い、市民の要望や意見を把握します。

なお、社会情勢の変化等に応じて適宜評価項目の変更や追加を行うものとします。

資料編

1 体系図

2 現状と課題

3 アンケート結果

- ①平成 29 年度第 3 回浜松市広聴モニターアンケート調査結果
- ②平成 29 年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果
- ③平成 29 年度『市民への約束』評価月間アンケート調査結果

4 市民ワークショップ記録

5 図書館協議会

1 体系図

《 浜松市図書館ビジョン 》



2 現状と課題

1 施設

浜松市は、平成17年7月の12市町村合併、平成19年4月の政令指定都市移行を経て、人口80万人を擁し、面積1,558km²という伊豆半島より広い市域を抱える都市です。

市立図書館において、直近では、平成23年1月に流通元町図書館を、平成28年4月に都田図書館を開館し、平成30年度現在で23館1分室となっており、広域都市における図書館空白地帯の解消に努めてきました。

図書館施設の形態は、従来型の単独館や協働センターとの併設館、民間施設内の複合館など多様であり、地域に根差した図書館サービスを展開する一方、施設の老朽化による改修や修繕費といった維持管理経費が増大しています。

これらを踏まえ、質の高い市民サービスを提供することと、市民の財産として保持していくことを両立させるため、浜松市公共施設等総合管理計画に基づき、施設のあり方を検討することが必要となります。

【表1】 築年数及び施設形態

館名	行政区	開館	築年数	施設形態	備考
中央	中区	1981年(昭和56年)04月14日	36年	単独	
駅前分室		2011年(平成23年)11月09日	06年	複合	遠鉄百貨店新館9階
城北		2006年(平成18年)10月01日	11年	単独	
南		1992年(平成04年)04月08日	25年	複合	南部協働センター
西		1979年(昭和54年)04月01日	38年	単独	
北		1983年(昭和58年)04月07日	34年	併設	北部協働センター
積志	東区	1980年(昭和55年)04月04日	37年	併設	積志協働センター
東		1982年(昭和57年)04月08日	35年	複合	蒲協働センター
流通元町		2011年(平成23年)01月06日	07年	複合	産業展示館北館1階
南陽	南区	1984年(昭和59年)04月11日	33年	複合	南陽協働センター
可新		1997年(平成09年)04月15日	20年	単独	
はまゆう	西区	2004年(平成16年)07月22日	13年	単独	
舞阪		1990年(平成02年)08月08日	27年	複合	郷土資料館
雄踏		1998年(平成10年)07月01日	19年	単独	
都田	北区	2016年(平成28年)04月01日	01年	単独	
細江		1990年(平成02年)09月11日	27年	単独	
引佐		1998年(平成10年)04月01日	19年	単独	
三ヶ日		2000年(平成12年)02月15日	18年	単独	
浜北	浜北区	2001年(平成13年)07月01日	16年	複合	なゆた・浜北、浜北区役所
天竜	天竜区	1980年(昭和55年)08月20日	37年	複合	二俣協働センター
春野		1992年(平成04年)08月03日	25年	複合	歴史民俗資料館
佐久間		1989年(平成元年)06月22日	28年	複合	佐久間駅舎
水窪		1996年(平成08年)07月07日	21年	複合	水窪文化会館
龍山		1990年(平成02年)08月08日	27年	複合	龍山森林文化会館

2018年(平成30年)4月1日現在

2 管理運営

図書館運営について、本市では平成 18 年 11 月から駅前分室に指定管理者制度を導入したのを皮切りに、これまでに 16 館 1 分室が指定管理者による運営となっています。これにより、各図書館において地域との連携や市民サービスの向上が図られてきました。

また、平成 26 年 4 月からは、合併前の開館日・開館時間を踏襲していたものを順次刷新し、より利用しやすい図書館となるよう、開館時間の延長と年末年始以外はいずれかの図書館が開館している環境を整えました。

民間活力の導入による効果が得られている中、今後さらに利用者サービスの向上を図るためには、23 館 1 分室の中心となる中央図書館の全館マネジメント能力を上げていく必要があります。

また、地区図書館においては、全市的な図書館サービスの水準を維持しながら、地域実情を把握し、暮らしやまちづくりを支える情報発信やコミュニティの形成といった視点からの管理運営が必要となっています。

【表 2】指定管理者制度の導入状況

館名	導入時期	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
駅前分室	H18.11.01	新規			→	更新				→	更新			
流通元町	H23.01.06					新規				→	更新			
西	H24.04.01							新規				→	更新	
積志	H24.04.01							新規				→	更新	
南	H25.04.01								新規					→
東														
北														
南陽														
浜北	H25.04.01								新規				→	更新
はまゆう	H26.04.01									新規				→
可新 雄踏	H26.04.01									新規				→
細江 引佐 三ヶ日	H26.04.01									新規				→
舞阪	H26.04.01									新規				→
都田	H28.04.01											新規		

【表3】開館日・開館時間の拡大状況

■H26実施館				～H25まで			
館名	休館日	開館時間		休館日	開館時間		
駅前分室	月曜(休日除く)	平日	10:00～20:00	無休館	平日	10:00～20:00	
		他	10:00～18:00		土日休	10:00～18:00	
はまゆう	火曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	無休館	平日	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		土日休	09:00～18:00	
浜北	月曜(祝日除く)	平日	09:30～19:00	無休館	平日	09:00～19:00	
	月曜祝日の翌日	他	09:30～17:00		土日休	09:00～18:00	
天竜	月曜日、休日		09:00～17:45	無休館		09:00～17:45	
	月曜祝日の翌日						
細江	火曜(休日除く)	月・水～土	10:00～18:00	無休館	金(休日除く)	09:00～19:00	
		日曜・休日	09:00～17:00		他	09:00～18:00	
引佐	月曜、休日		10:00～18:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
	月曜祝日の翌日				他	09:00～18:00	
三ヶ日	月曜、休日	火～土	09:30～18:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
	月曜祝日の翌日	日	09:00～17:00		他	09:00～18:00	
西	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
積志	火曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	火曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
可新	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
雄踏	月曜、休日		09:00～17:30	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
	月曜祝日の翌日				他	09:00～18:00	
舞阪	月曜、休日		09:30～17:30	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
	月曜祝日の翌日				他	09:00～18:00	
流通元町	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	

■H27実施館				～H26まで			
	休館日	開館時間		休館日	開館時間		
中央	月曜(休日除く)	平日	09:00～19:00	無休館	平日	09:00～19:00	
		土日休	09:00～17:30		土日休	09:00～18:00	
城北	無休館	平日	09:00～19:00	無休館	平日	09:00～19:00	
		土日休	09:00～17:30		土日休	09:00～18:00	

■H30実施館				～H29まで			
館名	休館日	開館時間		休館日	開館時間		
南	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
東	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
北	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	
南陽	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	月曜(休日除く)	金(休日除く)	09:00～19:00	
		他	09:00～17:30		他	09:00～18:00	

3 資料

平成29年度末の浜松市立図書館の蔵書は約235万冊※あり、市民一人あたりの蔵書数(2.95冊)では、政令指定都市の中で第2位となり、平均値(1.90冊)を大きく上回っています。

貸出冊数及び貸出利用者数は、ここ5か年では概ね増加傾向にあり、インターネットの普及に伴い、手軽に予約ができるようになったことが要因の一つと考えられます。

また、平成26年10月から貴重な古文書や絵図をデジタルアーカイブとしてインターネット上で公開しており、所蔵資料の効果的な活用を図っています。

さらに、平成30年2月からは、電子図書サービスの利用提供を試験的に開始し、本格導入に向けて調査研究を行っています。

※雑誌、AV資料を除く

その他、視聴覚資料の提供も行っており、雑誌も加えると資料数は約 250 万点となっています。

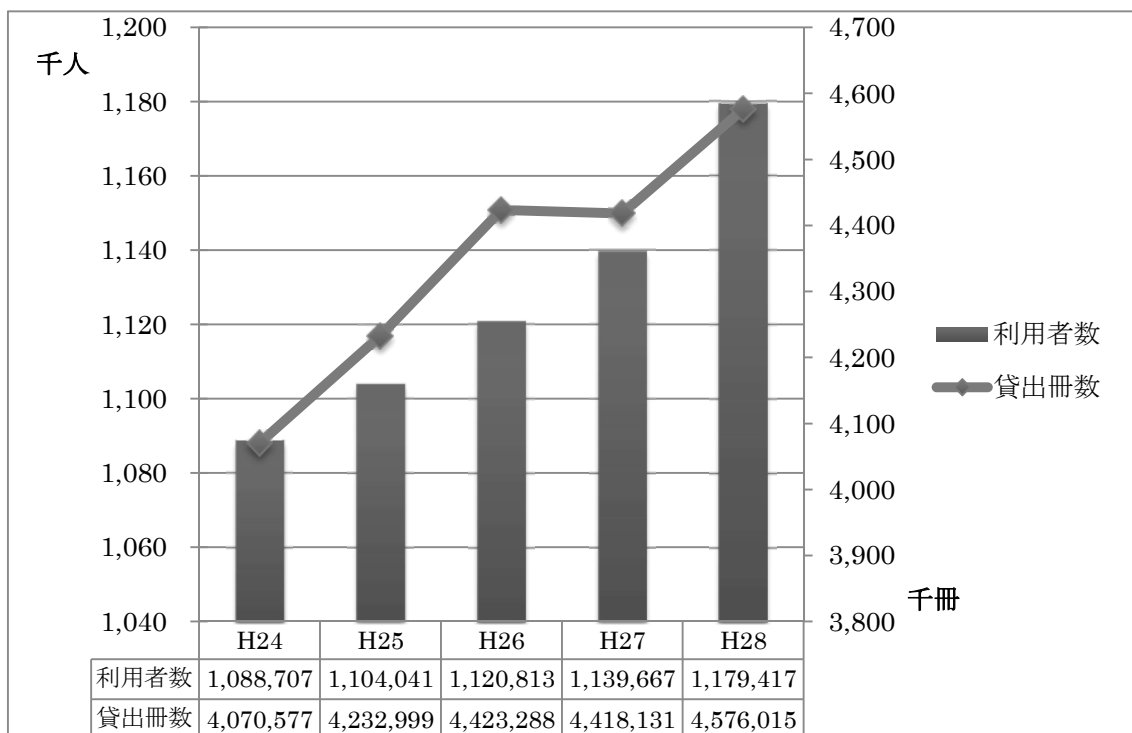
蔵書構築は図書館サービスの根幹をなすものであり、今後においても、市民のニーズに留意しながら多様な資料の収集と効果的な提供を行っていくことが必要となります。

【表 4】政令指定都市の蔵書数（市民一人当たり）

No.	都市名	奉仕人口 (人)	蔵書数(逐次刊行物を除く)		奉仕人口当たり	
			(冊)	順位	(冊/人)	順位
1	札幌市	1,957,685	2,708,351	5	1.38	15
2	仙台市	1,080,263	1,963,955	11	1.82	10
3	さいたま市	1,284,937	3,654,581	3	2.84	3
4	千葉市	973,856	2,295,035	8	2.36	5
5	横浜市	3,728,124	4,142,124	2	1.11	19
6	川崎市	1,496,035	1,941,936	13	1.30	17
7	相模原市	720,986	1,489,209	19	2.07	9
8	新潟市	796,269	1,912,358	14	2.40	4
9	静岡市	707,173	2,356,756	6	3.33	1
10	浜松市	795,322	2,349,680	7	2.95	2
11	名古屋市	2,303,070	3,327,280	4	1.44	14
12	京都市	1,469,360	1,908,418	15	1.30	16
13	大阪市	2,704,557	4,239,108	1	1.57	12
14	堺市	835,467	1,889,247	16	2.26	8
15	神戸市	3,068,122	2,101,687	10	0.69	20
16	岡山市	720,078	1,687,756	17	2.34	6
17	広島市	1,193,051	2,132,517	9	1.79	11
18	北九州市	950,412	1,387,643	20	1.46	13
19	福岡市	1,557,669	1,950,274	12	1.25	18
20	熊本市	678,448	1,541,260	18	2.27	7

出典：平成29年度 政令指定都市立図書館長会議資料(H28実績)より

【表 5】利用者数・貸出冊数の推移



※貸出冊数はH25から貸出期間延長分も含む

4 図書館サービス

図書館法第二条では、『「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設』とあり、図書館は本を貸出す以上の使命があると考えられます。

本市では、児童向けのおはなし会や赤ちゃんやその保護者を対象としたブックスタート事業、一般向けの郷土研究講座や読書講演会等を開催しており、図書を通じた多様な教養・娯楽の場を提供しています。

また、障がいのある人のための奉仕者養成講座や声のライブラリーといった録音・点字図書の貸出、高齢世代のための健康・医療情報発信、外国人に向けた多文化サービスの提供等、誰もが図書館に親しみを持っていただけるような創意工夫を心掛けています。

これまでの図書館サービスは、情報と人を結び付け、ひとりひとりに寄り添うパーソナルなサービス（情報⇄人）に重点をおいていましたが、今後は、人と人とが交流し、にぎわいを生み出す社会的コモンズとしてのサービス（人⇄人・地域）についても求められているところであり、これからの図書館機能としては、その両立を図っていかねばなりません。

【表 6】図書館サービス一覧

<p>○児童サービス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パパ・ママ絵本講座 ・おでかけ絵本講座 ・読み聞かせボランティア養成講座 ・ブックスタート事業 ・おはなし会 ・えほんとわらべうたの会 ほか 	<p>○障がい者サービスに関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音訳奉仕者養成講座 ・点訳奉仕者養成講座 ・声のライブラリー ほか
<p>○学校との連携・学校図書館への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館職員研修会 ・学習支援パック貸出 ・調べ学習コンクール ・夏休み調べ学習講座 ・読書感想文コンクール ・親子新聞講座 ・施設見学等受入 <p style="text-align: right;">ほか</p>	<p>○一般向け講座・講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読書推進講演会 ・子ども読書推進講演会 ・郷土研究講座(前・後期) ・古文書解読会 ・デジタルアーカイブ公開記念講座 ・情報活用講座 ほか
	<p>○その他事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種企画展 ・外国人向けおはなし会 ・16ミリフィルムライブラリー ・ボランティア、実習生受入 ほか

5 レファレンス（調べもの）サービス

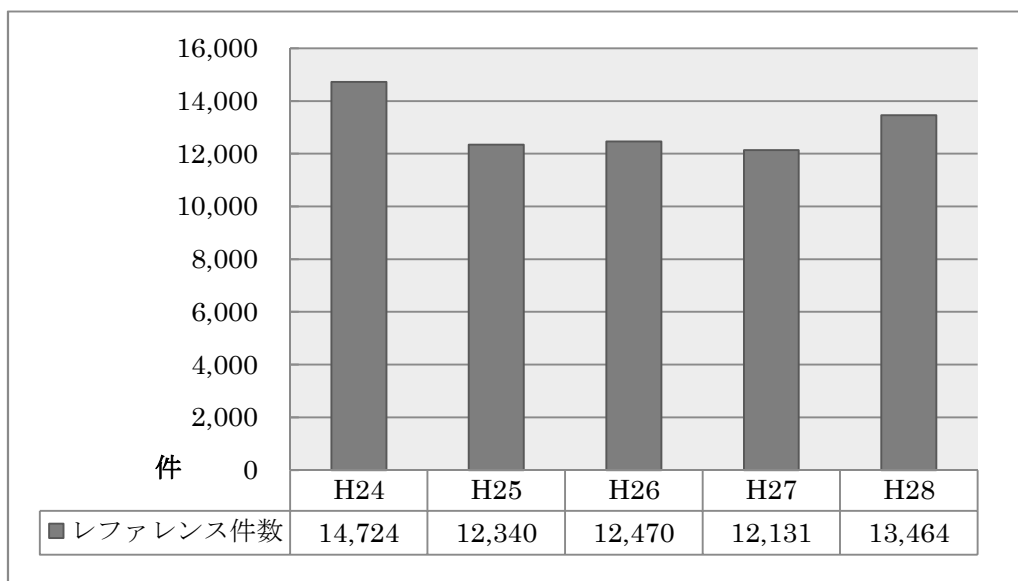
レファレンスサービスとは、ある特定の情報を求める利用者に対し、適切な情報を探し出せるように支援するサービスのことで、市民からの調査・相談に応じています。

受付件数は、インターネットの普及により減少傾向にありますが、レファレンスサービスでは、図書館ならではの情報が得られることから、近年ではより専門的な情報を求める利用者の相談も多く寄せられている状況です。

多様なレファレンスに対し的確な回答を行うためには知識と経験を要するため、市民の課題解決に結びつくレファレンスサービスを継続的に提供するためには、司書の育成が重要となります。

また、課題解決という視点では、市の行政機関についても活用を広げ、政策立案に資するレファレンスサービスを行っていくことで、市民にとってより価値の高いサービス提供につながるものと考えます。

【表 7】レファレンス受付件数の推移



3 アンケート結果

① ≪平成29年度第3回浜松市広聴モニターアンケート調査結果≫ 概要

1 調査目的

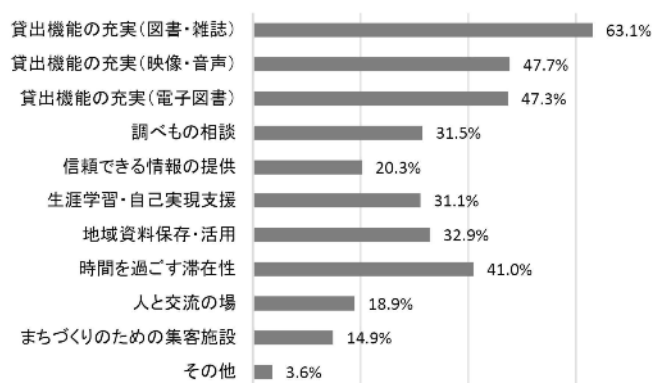
市政の課題等について、迅速に市民ニーズを把握し、市政へ反映するため

2 調査実施概要

- (1)調査地域 浜松市内
- (2)調査対象 広聴モニター269人
- (3)調査方法 質問紙郵送法及びインターネット回答
- (4)調査期間 平成29年9月8日～9月22日

3 回収状況、有効回収率 222人(82.5%)

■ 問1 これからの図書館よりに必要なこと (N=222 複数回答)



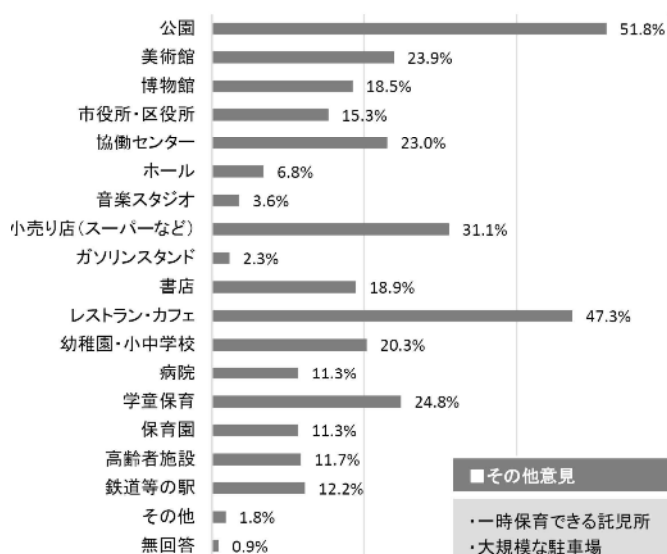
- 図書館に必要なことは、全体では、「貸出機能の充実」が他の項目と比べていずれも高く、(図書・雑誌)が6割超を占めています。また(映像・音声)と(電子図書)についても約半数となっています。
- 世代別ではすべての世代で「貸出機能の充実(図書・雑誌)」が最も多い回答となっています。

■ その他意見

- ・趣味の雑誌の充実
- ・学童保育(子供が安全で安心して過ごせる場所)のような場所
- ・パソコンで調べものができる
- ・高齢者施設にはならないように

(%)	貸出機能の充実(図書・雑誌)	貸出機能の充実(映像・音声)	貸出機能の充実(電子図書)	調べもの相談	信頼できる情報の提供	生涯学習・自己実現支援	地域資料保存・活用	時間を過ごす滞在性	人と交流の場	まちづくりのための集客施設	その他
若者	65.6	60.9	57.8	23.4	14.1	21.9	21.9	45.3	9.4	9.4	3.1
子育て	57.9	39.5	52.6	27.6	13.2	30.3	27.6	43.4	22.4	17.1	3.9
中高年	71.4	57.1	42.9	42.9	21.4	31.0	35.7	33.3	14.3	14.3	4.8
高齢者	60.0	32.5	25.0	40.0	42.5	47.5	57.5	37.5	32.5	20.0	2.5

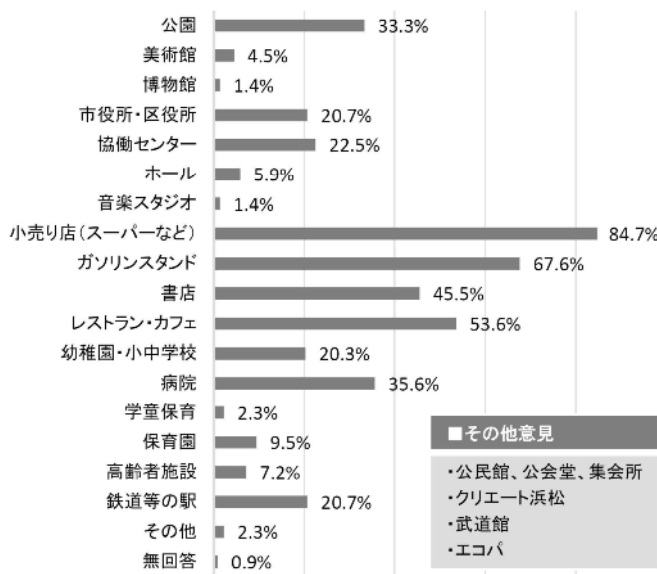
■ 問2 図書館に隣接するとよいと思う施設 (N=222 複数回答)



(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
公園	54.7	57.9	52.4	35.0
美術館	18.8	18.4	40.5	25.0
博物館	15.6	17.1	28.6	15.0
市役所・区役所	15.6	11.8	21.4	15.0
協働センター	10.9	25.0	28.6	32.5
ホール	4.7	3.9	9.5	12.5
音楽スタジオ	4.7	2.6	2.4	5.0
小売り店(スーパーなど)	37.5	26.3	26.2	35.0
ガソリンスタンド	1.6	1.3	4.8	2.5
書店	37.5	9.2	14.3	12.5
レストラン・カフェ	57.8	42.1	45.2	42.5
幼稚園・小中学校	18.8	23.7	21.4	15.0
病院	17.2	3.9	9.5	17.5
学童保育	28.1	25.0	26.2	17.5
保育園	14.1	6.6	21.4	5.0
高齢者施設	4.7	9.2	14.3	25.0
鉄道等の駅	18.8	6.6	7.1	17.5
その他	-	5.3	-	-
無回答	-	-	2.4	2.5

- 図書館と隣接するとよいと思う施設は、全体では「公園」が5割を超え、次いで「レストラン・カフェ」が5割弱となっています。
- 世代別では、若者・高齢者は「レストラン・カフェ」が、子育て・中高年は「公園」が最も多い回答となっています。

■ 問3 直近15日間で利用・訪問した施設等 (N=222 複数回答)

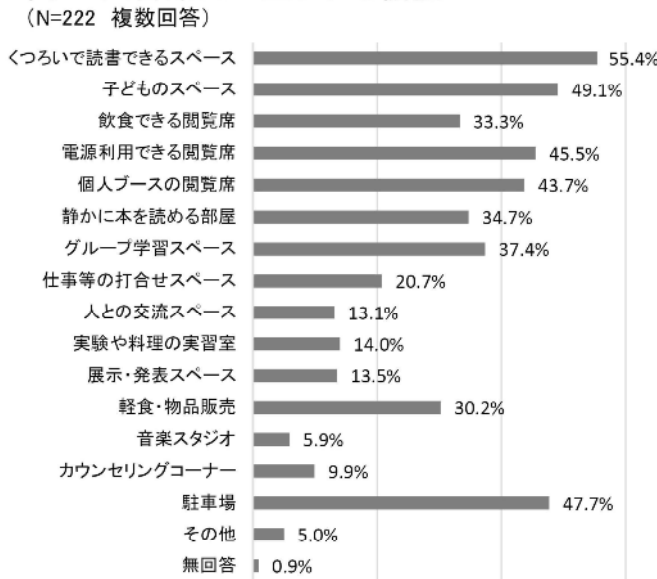


(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
公園	35.9	32.9	28.6	35.0
美術館	6.3	1.3	2.4	10.0
博物館	-	1.3	-	5.0
市役所・区役所	23.4	13.2	23.8	27.5
協働センター	10.9	23.7	19.0	42.5
ホール	4.7	6.6	4.8	7.5
音楽スタジオ	1.6	1.3	-	2.5
小売り店(スーパーなど)	85.9	85.5	90.5	75.0
ガソリンスタンド	60.9	75.0	73.8	57.5
書店	53.1	50.0	45.2	25.0
レストラン・カフェ	62.5	55.3	54.8	35.0
幼稚園・小中学校	18.8	36.8	7.1	5.0
病院	29.7	31.6	38.1	50.0
学童保育	1.6	3.9	2.4	-
保育園	17.2	9.2	4.8	2.5
高齢者施設	3.1	3.9	14.3	12.5
鉄道等の駅	23.4	22.4	16.7	17.5
その他	1.6	3.9	-	2.5
無回答	1.6	1.3	-	-

- 直近15日間で利用・訪問した施設等は、全体では、「小売り店(スーパーなど)」が8割を超え、「ガソリンスタンド」や「レストラン・カフェ」も5割を超えています。
- 世代別でもすべての世代で「小売り店(スーパーなど)」が最も多い回答となっています。

■ その他意見
 ・公民館、公会堂、集会所
 ・クリエート浜松
 ・武道館
 ・エコパ

■ 問4 図書館内の望まれる機能について (N=222 複数回答)

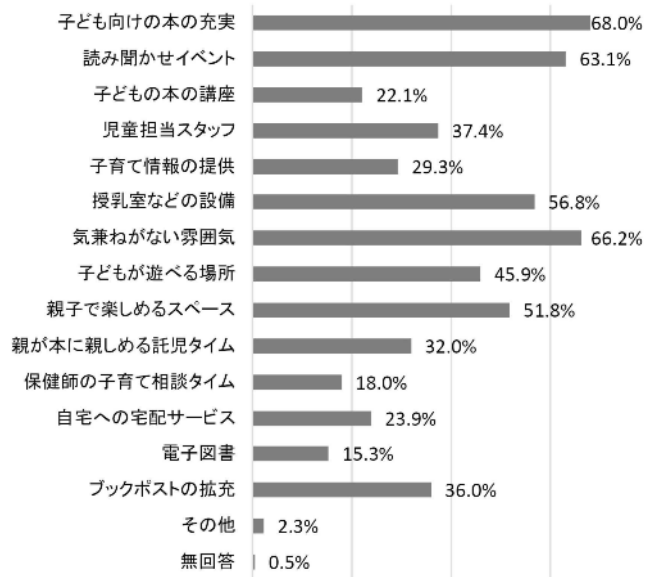


(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
くつろいで読書できるスペース	68.8	51.3	45.2	52.5
子どものスペース	57.8	53.9	42.9	32.5
飲食できる閲覧席	42.2	28.9	35.7	25.0
電源利用できる閲覧席	64.1	44.7	42.9	20.0
個人ブースの閲覧席	54.7	38.2	47.6	32.5
静かに本を読める部屋	34.4	23.7	50.0	40.0
グループ学習スペース	31.3	42.1	35.7	40.0
仕事等の打合せスペース	26.6	18.4	19.0	17.5
人との交流スペース	14.1	17.1	7.1	10.0
実験や料理の実習室	20.3	10.5	19.0	5.0
展示・発表スペース	4.7	10.5	19.0	27.5
軽食・物品販売	45.3	28.9	21.4	17.5
音楽スタジオ	7.8	5.3	7.1	2.5
カウンセリングコーナー	6.3	7.9	16.7	12.5
駐車場	32.8	51.3	52.4	60.0
その他	4.7	7.9	2.4	2.5
無回答	-	2.6	-	-

- 図書館内の望まれる機能は、全体では、「くつろいで読書できるスペース」が5割を超えて、最も多い回答となっています。
- 世代別では、若者は「くつろいで読書できるスペース」、子育ては「子どものスペース」、中高年・高齢者は「駐車場」が、それぞれ最も多い回答となっています。

■ その他意見
 ・飲食可能なスペース(本は読めなくてもいい)
 ・防音室 ・学習スペース ・手習い教室
 ・平日の利用時間の拡大 ・ドライブスルー
 ・長期休暇の時に小学生が過ごせる場所

■ 問5 図書館で子どもと家族に大切な要素 (N=222 複数回答)



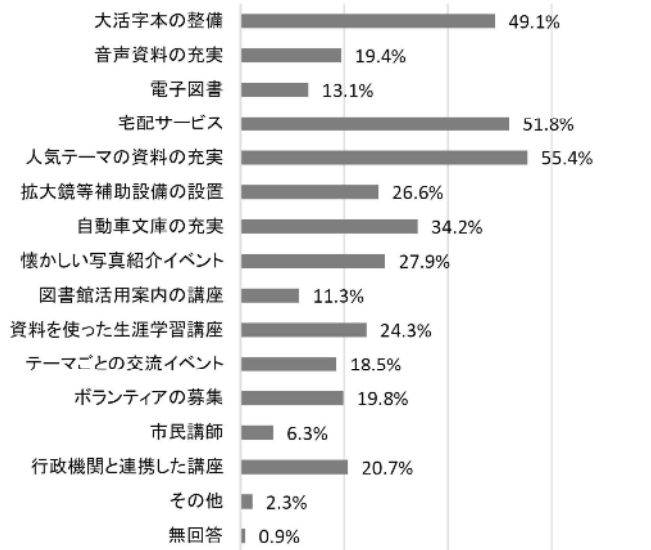
- 図書館で子どもと家族に大切な要素は、全体では「子ども向けの本の充実」や「気兼ねがない雰囲気」、「読み聞かせイベント」が6割を超えています。
- 世代別をみると、若者と子育て世代においては「気兼ねがない雰囲気」が7割を超えて、最も多い回答となっています。

(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
子ども向けの本の充実	70.3	63.2	76.2	65.0
読み聞かせイベント	57.8	68.4	73.8	50.0
子どもの本の講座	15.6	25.0	26.2	22.5
児童担当スタッフ	43.8	38.2	35.7	27.5
子育て情報の提供	29.7	35.5	26.2	20.0
授乳室などの設備	60.9	52.6	69.0	45.0
気兼ねがない雰囲気	75.0	76.3	66.7	32.5
子どもが遊べる場所	65.6	38.2	33.3	42.5
親が本に親しむ託児タイム	43.8	50.0	69.0	50.0
親が本に親しむ託児タイム	23.4	34.2	42.9	30.0
保健師の子育て相談タイム	15.6	21.1	23.8	10.0
自宅への宅配サービス	32.8	25.0	16.7	15.0
電子図書	15.6	18.4	11.9	12.5
ブックポストの拡充	34.4	43.4	31.0	30.0
その他	-	3.9	2.4	2.5
無回答	-	-	-	2.5

■ その他意見

- ・すべての図書館で子育て関連雑誌の充実
- ・市の子育て支援広場などの情報提供 ・空調設備(寒い)
- ・本が清潔であること ・遊び場は少ない

■ 問6 図書館でシニア世代に必要なサービス (N=222 複数回答)



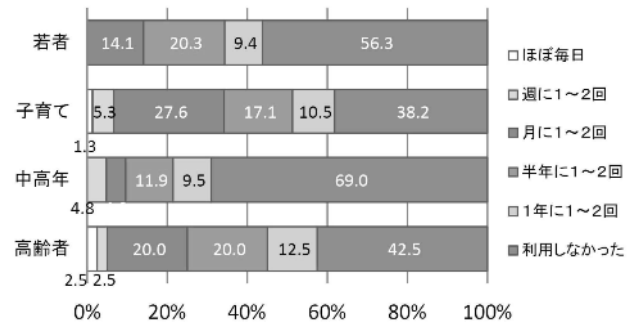
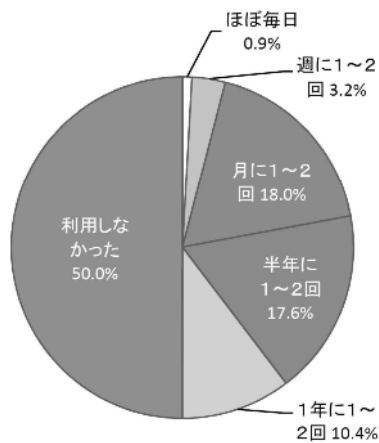
- 図書館でシニア世代に必要なサービスは、全体では「人気テーマの資料の充実」や「宅配サービス」が5割を超えています。
- 世代別をみると、これからシニア世代を迎える中高年や高齢者でも「人気テーマの資料の充実」が最も多い回答となっています。

(%)	若者	子育て	中高年	高齢者
大活字本の整備	54.7	47.4	50.0	42.5
音声資料の充実	18.8	18.4	28.6	12.5
電子図書	10.9	11.8	16.7	15.0
宅配サービス	53.1	59.2	42.9	45.0
人気テーマの資料の充実	45.3	52.6	66.7	65.0
拡大鏡等補助設備の設置	29.7	30.3	23.8	17.5
自動車文庫の充実	51.6	27.6	31.0	22.5
懐かしい写真紹介イベント	23.4	28.9	31.0	30.0
図書館活用案内の講座	10.9	10.5	11.9	12.5
資料を使った生涯学習講座	17.2	26.3	23.8	32.5
テーマごとの交流イベント	9.4	22.4	23.8	20.0
ボランティアの募集	18.8	19.7	31.0	10.0
市民講師	7.8	5.3	7.1	5.0
行政機関と連携した講座	14.1	22.4	21.4	27.5
その他	3.1	2.6	2.4	-
無回答	-	1.3	2.4	-

■ その他意見

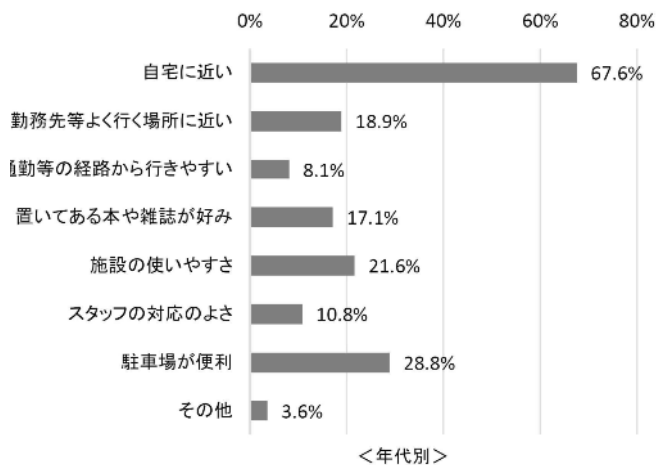
- ・一日中いられるような滞在性と、軽食がとれる場所
- ・椅子を随所に置く
- ・シニア専用の図書館(感染防止など)
- ・認知症対策(脳トレの本の貸出や講座)

■ 問7 1年以内の図書館の利用頻度 (N=222)



- 1年以内の図書館の利用頻度は、全体では5割が1年以内に図書館を『利用した』(「ほぼ毎日」、「週に1~2回」、「月に1~2回」、「半年に1~2回」、「年に1~2回」の合計)と回答しています。
- 世代別では、子育てと高齢者では約6割が『利用した』と回答していますが、一方で、若者と中高年では約6割が「利用しなかった」と回答しています。

■ 問8 利用する図書館の選定理由 (問7で『利用した』と回答した方) (N=111 複数回答)



- 利用する図書館の選定理由は、全体では「自宅に近い」が約7割となっています。
- 全世代でも「自宅に近い」が最も多い回答となっていますが、次いで子育て・中高年・高齢者では「駐車場が便利」の回答も多くなっています。
- 利用頻度別では、利用頻度が多い層ほど「自宅に近い」図書館を選ぶ回答割合が高くなっています。

■ その他意見

- ・実家に近い
- ・孫の家に近い
- ・本がきれい
- ・スーパーが近くにある
- ・雰囲気

理由 (%)	<年代別>				<利用頻度別>				
	若者	子育て	中高年	高齢者	ほぼ毎日	週に1~2回	月に1~2回	半年に1~2回	1年に1~2回
自宅に近い	67.9	76.6	69.2	47.8	100.0	71.4	70.0	64.1	65.2
勤務先等よく行く場所に近い	10.7	14.9	38.5	26.1	-	28.6	17.5	20.5	17.4
通勤等の経路から行きやすい	14.3	2.1	15.4	8.7	-	14.3	10.0	5.1	8.7
置いてある本や雑誌が好み	21.4	14.9	7.7	21.7	-	14.3	22.5	12.8	17.4
施設の使いやすさ	10.7	25.5	23.1	26.1	-	28.6	25.0	23.1	13.0
スタッフの対応のよさ	3.6	10.6	7.7	21.7	-	28.6	17.5	5.1	4.3
駐車場が便利	10.7	31.9	46.2	34.8	50.0	28.6	17.5	43.6	21.7
その他	3.6	4.3	7.7	-	-	-	5.0	5.1	-

② ≪平成 29 年度浜松市立図書館利用に関するアンケート調査結果≫ 概要

1 調査目的

これからの図書館サービスの向上に役立てるため

2 調査実施概要

- (1)調査対象 図書館利用者及び自動車文庫利用者
- (2)調査方法 各図書館窓口にて調査票を配布、回収箱により回収
- (3)調査期間 平成 29 年 9 月 1 日～9 月 22 日

3 回収状況 有効回答 1,627 件

■問1 図書館の利用頻度

【性別】

	毎日1回以上	週に1回以上	月に1回以上	年に1回以上	未回答	合計
全体	2.34%	31.47%	55.07%	7.74%	3.38%	100%
男性	4.98%	41.76%	45.40%	5.94%	1.92%	100%
女性	1.03%	26.97%	60.60%	8.87%	2.52%	100%

回答者の約 55%が「月に 1 回以上」利用している。「週に 1 回以上」や「毎日 1 回以上」の利用も含めると、約 89%は図書館の定期的な利用者からの回答である。「週に 1 回以上」と「月に 1 回以上」の割合を比較した場合、男性からの回答に大きな差はないが、女性からの回答では「月に 1 回以上」が「週に 1 回以上」の約 2.2 倍であった。資料の貸出期間が 15 日間であることが「月に 1 回以上」が多い理由であると推測される。

【年齢層別】

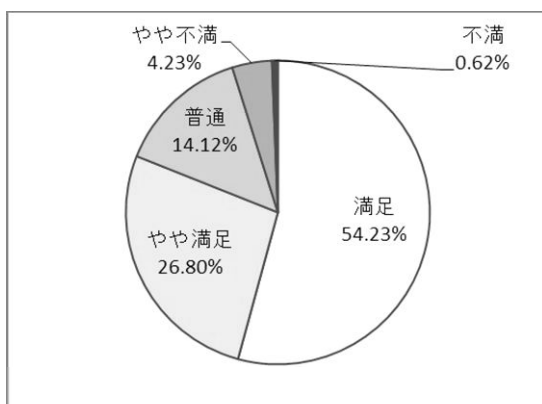
	毎日1回以上	週に1回以上	月に1回以上	年に1回以上	未回答	合計
中学生以下	4.69%	21.88%	60.94%	9.38%	3.13%	100%
10代 (中学生以下を除く)	5.00%	42.50%	45.00%	7.50%	0%	100%
20代	2.33%	37.21%	53.48%	6.98%	0%	100%
30代	2.33%	23.26%	63.71%	8.84%	1.86%	100%
40代	0.59%	23.30%	65.49%	8.55%	2.06%	100%
50代	1.81%	31.41%	57.40%	6.86%	2.53%	100%
60代	2.33%	38.08%	48.70%	8.03%	2.85%	100%
70歳以上	4.24%	41.53%	45.76%	6.36%	2.12%	100%
未回答	3.70%	14.81%	7.41%	3.70%	70.37%	100%

すべての年齢層において「月に 1 回以上」の利用が最も多く、特に中学生以下及び 30 代、40 代では「月に 1 回以上」が 6 割を超えている。40 代以降、年齢層が上がるにつれて「週に 1 回以上」の利用の割合が徐々に高くなっている。

■問2 図書館機能に関する利用者満足度

※「満足」=5点、「やや満足」=4点、「普通」=3点、「やや不満」=2点、「不満」=1点として、評価点を算出

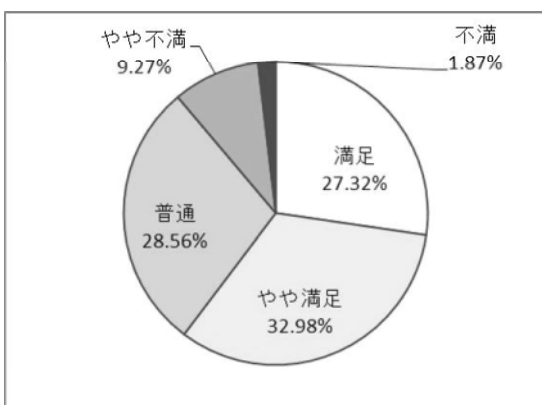
(1) あなたにとって利用しやすい開館日・開館時間ですか (N=1,608)



評価点は 4.30 であり、百分率では「満足」の割合が 5 割を超えた。「やや満足」を含めると 8 割以上が利用しやすいと考えている。「不満」の理由として、「19 時まで開いていたら勉強に通える (10 代女性)」「仕事帰りに寄るので 19 時までの日が増えるとありがたい (40 代女性)」などが挙げられた。僅かながら 21 時や 22 時までの開館を希望する回答者もいた。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.44	4.00	4.61	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.18	4.32	4.05	0.00
20代	4.35	4.18	4.41	0.00
30代	4.41	4.15	4.46	5.00
40代	4.26	3.91	4.32	4.50
50代	4.18	4.06	4.23	5.00
60代	4.26	4.28	4.25	4.40
70歳以上	4.39	4.41	4.35	4.50
未回答	4.62	5.00	4.83	4.50
全体	4.30	4.23	4.33	4.54

(2) あなたの読みたい本、雑誌、新聞などはありますか? (N=1,607)

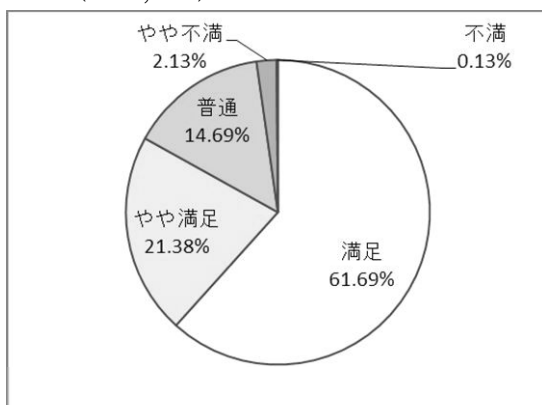


評価点は 3.75 であり、百分率では「満足」と「やや満足」を合せて約 6 割となる一方、「不満」及び「やや不満」の回答も合せて 1 割強あった。若い世代では満足と感じる回答が多いが、50 代、60 代では物足りなさを感じている様子が窺える。

なお、「不満」の理由として、「古い本が多すぎる (60 代女性)」「新聞書評に取り上げられる話題の本をもう少し入れてほしい (60 代女性)」「雑誌、週刊誌など各図書館に振り分けて置いてあるが、各館の利用者の希望を聞いてほしい (男性)」などが挙げられた。「予約取寄せできるので概ね満足 (40 代女性)」とする意見がある一方、「予約の多い本は何百人待ちになるので冊数を増やしてほしい (40 代女性)」との指摘もあった。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.05	3.65	4.20	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.08	4.16	4.00	0.00
20代	3.93	3.64	4.03	0.00
30代	3.91	3.85	3.92	4.00
40代	3.78	3.67	3.80	2.50
50代	3.59	3.62	3.58	3.00
60代	3.61	3.67	3.56	4.00
70歳以上	3.79	3.86	3.69	3.50
未回答	3.85	2.00	4.17	3.85
全体	3.75	3.74	3.75	3.70

(3) 貸出サービスに満足していますか？ (図書 12 冊・AV 資料 3 点、15 日間貸出)
(N=1,600)

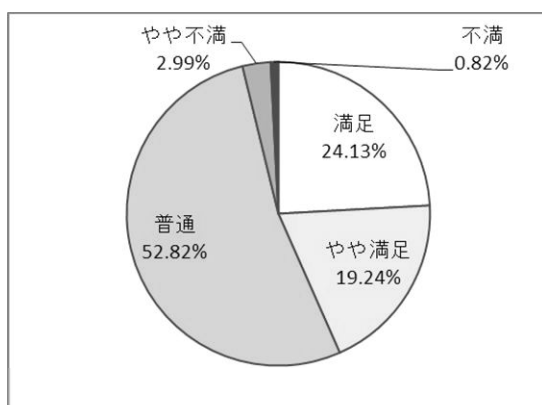


評価点は 4.42 であり、若い年齢層で比較的高い点数となった。百分率では、「満足」と「やや満足」を合せて約 83% となった。「満足」の回答のみでも 6 割を超える。

なお、「不満」の理由として、「貸出日数を 21 日間にしてほしい (50 代女性)」など貸出期間の延長を求める声がある一方で、「予約した本をなかなか借りられないので、取置期間、貸出期間を短くする必要がある (40 代男性)」との意見もあった。

性別区分 年齢区分	性別区分			
	全体	男性	女性	性別未回答
中学生以下	4.62	4.24	4.76	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.38	4.42	4.33	0.00
20代	4.60	4.55	4.63	0.00
30代	4.57	4.34	4.62	5.00
40代	4.53	4.48	4.55	3.50
50代	4.24	4.17	4.27	2.00
60代	4.33	4.33	4.32	4.60
70歳以上	4.46	4.52	4.37	4.50
未回答	4.14	3.00	4.33	4.14
全体	4.42	4.37	4.45	4.21

(4) 講演会、講座、企画・テーマ展示等に満足していますか？ (N=1,471)



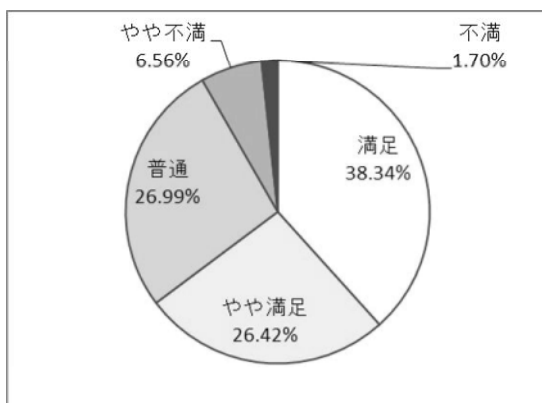
評価点は 3.63 であった。全体として 10 代以下の評価点は 4 点台であるものの、年齢層が上がるにつれて徐々に下がっている。

百分率では、「満足」と「やや満足」を合せても 4 割強である一方、「普通」との回答が 5 割を超えている。強く不満を持つまでではないものの、年齢層が上がるにしたがって回答者の興味は多様化することが推測され、多岐に渡る事業が期待されているものと考えられる。

なお、「不満」の理由として、「事前の予告、内容の紹介等の案内が目立つところになく、気が付かない (60 代男性)」「企画、テーマが不鮮明で分かりにくい (70 歳以上男性)」などが挙げられた。「講演会の企画を市民から募集して実現してほしい (20 代男性)」という意見もあった。

性別区分 年齢区分	性別区分			
	全体	男性	女性	性別未回答
中学生以下	4.14	3.88	4.24	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.03	4.11	3.95	0.00
20代	3.90	3.36	4.10	0.00
30代	3.77	3.85	3.75	4.00
40代	3.64	3.47	3.68	3.00
50代	3.49	3.37	3.53	0.00
60代	3.48	3.50	3.45	3.80
70歳以上	3.59	3.54	3.65	4.33
未回答	3.60	3.00	3.50	3.69
全体	3.63	3.55	3.66	3.76

(5) 館内の居心地、座席数に満足していますか？ (N=1,586)



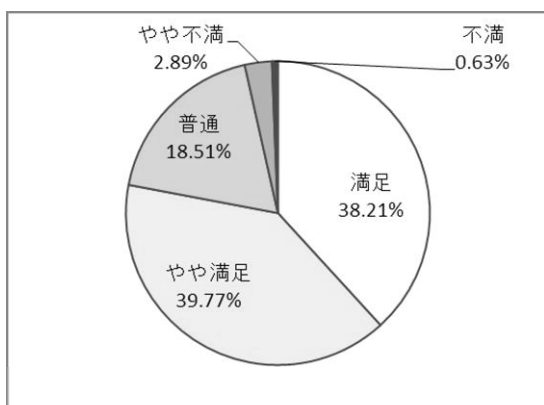
評価点は3.93であった。高い年齢層では評価がやや低い。百分率では、「満足」と「やや満足」を合せて約65%となり、「普通」が約27%である。

館内の設備環境について回答者は一定の理解を示しつつも、高い年齢層の世代はやや物足りなさを感じていることが窺われる。

なお、「不満」の理由として、「館内にゆったり読書できる、よい雰囲気の場所が少ない(60代女性)」「パソコンが使えるスペースが欲しい(50代男性)」「飲食スペースを作ってほしい(50代男性)」「談話スペース、安心して居られる空間がほしい(50代女性)」「一般利用者とは別に、子供がリラックスできる空間を欲しい(70歳以上女性)」などが挙げられた。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.30	4.06	4.39	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.30	4.42	4.19	0.00
20代	4.12	3.82	4.22	0.00
30代	4.01	4.02	4.01	3.50
40代	3.97	4.02	3.97	2.50
50代	3.71	3.62	3.75	3.00
60代	3.88	3.88	3.86	4.40
70歳以上	3.96	3.99	3.92	3.67
未回答	3.95	3.00	4.50	3.77
全体	3.93	3.92	3.94	3.73

(6) 図書館の総合評価としてはいかがですか？ (N=1,594)



評価点は4.12となった。20代以下の区分で4.50以上の高い評価が見られる一方、50代や女性の60代では3点台後半の点数となり、この世代の回答者がやや物足りなさを感じていることが窺える。

百分率では約8割が「満足」又は「やや満足」と回答している。年齢層による評価の幅は見られるものの、図書館の総合的な評価として回答者は概ね満足を得ているものと考えられる。

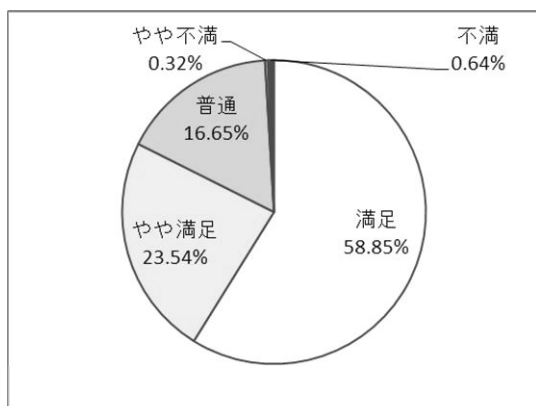
なお、「不満」の理由の中には職員の接客に関わることが何件かあったが、この中には「子供がうるさいが注意しない」「静かな環境の維持に努めていない」といった、それぞれの利用者が図書館に求めるものの差異から生じている事例も見受けられた。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.38	4.00	4.52	4.38
10代(中学生以下を除く)	4.53	4.53	4.52	4.53
20代	4.40	4.09	4.50	4.40
30代	4.28	4.22	4.29	4.28
40代	4.15	4.11	4.17	4.15
50代	3.97	3.92	3.99	3.97
60代	4.03	4.13	3.96	4.03
70歳以上	4.06	4.11	4.00	4.06
未回答	4.09	4.00	4.50	4.09
全体	4.12	4.11	4.13	4.12

■問3 図書館サービスに関する利用者満足度

※「満足」=5点、「やや満足」=4点、「普通」=3点、「やや不満」=2点、「不満」=1点として、評価点を算出

(1) 図書館職員による必要な資料や情報を見つけるお手伝い (N=943)

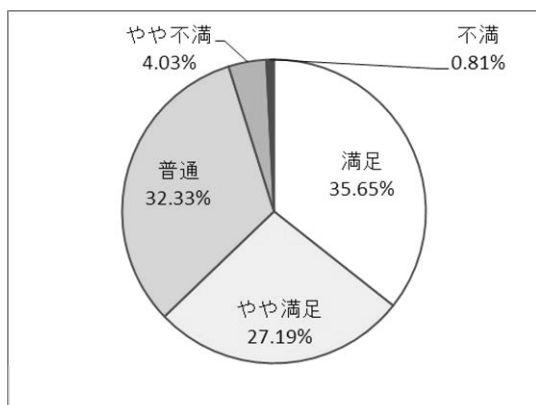


評価点は4.40となった。性別、年代を問わず4点台の評価である。

百分率では約82%が「満足」又は「やや満足」と回答しており、「満足」のみでも6割に近い。一方、「やや不満」及び「不満」は1%に満たない。幅広い利用者層が概ね満足しているものと考えられる。なお、「不満」の理由として、「職員により知識の偏りがある(30代女性)」などの意見があった。

性別区分 年齢区分	性別区分			
	全体	男性	女性	性別未回答
中学生以下	4.56	4.31	4.69	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.50	4.40	4.60	0.00
20代	4.59	4.40	4.65	0.00
30代	4.40	4.59	4.35	4.00
40代	4.48	4.37	4.50	4.00
50代	4.20	4.08	4.24	4.00
60代	4.39	4.40	4.38	4.67
70歳以上	4.40	4.40	4.37	5.00
未回答	4.36	0.00	4.60	4.17
全体	4.40	4.37	4.41	4.40

(2) 図書館のホームページ (N=993)

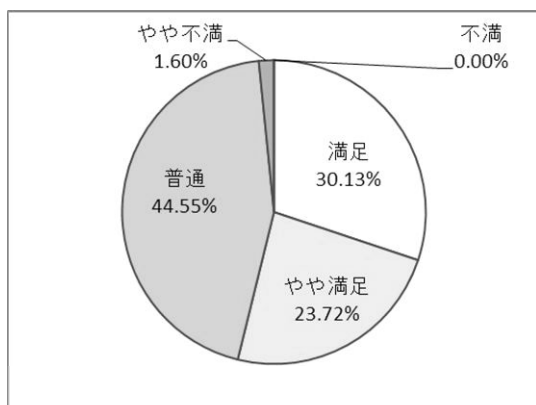


評価点は3.93となった。百分率では約63%が「満足」又は「やや満足」としているが、約32%は「普通」としている。概ね満足を得ている回答者も多いものの、高い年齢層ではコンテンツの物足りなさや構成の分かりづらさなどを感じている方が多いことが窺える。

なお、「不満」の理由として、「盛りだくさんで見にくい。ログイン欄が小さすぎる(60代女性)」「スマートフォンから操作しにくい(50代女性)」「1ページにすべてのイベントが記載されているため、該当の箇所を探すのが大変(40代女性)」等が挙げられた。

性別区分 年齢区分	性別区分			
	全体	男性	女性	性別未回答
中学生以下	4.28	4.20	4.33	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.12	4.14	4.08	0.00
20代	3.94	3.56	4.07	0.00
30代	4.00	4.00	4.00	4.00
40代	4.00	4.14	3.98	4.00
50代	3.86	3.75	3.92	3.00
60代	3.79	3.77	3.78	4.33
70歳以上	3.88	3.89	3.92	3.00
未回答	3.92	3.00	3.50	4.29
全体	3.93	3.88	3.95	4.00

(3) 電子図書館サービス (浜松市文化遺産デジタルアーカイブ) (N=312)

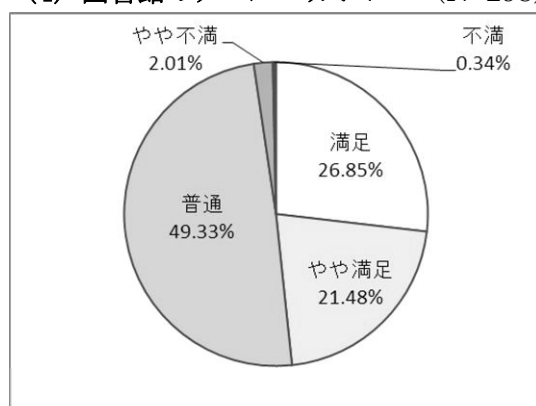


評価点は3.82となった。百分率では、約54%が「満足」又は「やや満足」と回答し、「普通」とする回答が約45%となった。「やや不満」は僅かにあるが、「不満」を感じている回答者はいない。

強く「満足」「不満」を感じる要素は少ないものの、やや物足りなさを感じる回答者が多いことが窺える。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.28	3.86	4.55	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.27	4.40	4.17	0.00
20代	4.11	2.00	4.38	0.00
30代	3.92	4.12	3.84	3.00
40代	3.82	4.00	3.79	0.00
50代	3.60	3.33	3.71	0.00
60代	3.61	3.65	3.50	5.00
70歳以上	3.84	3.81	4.00	3.00
未回答	4.25	0.00	4.00	4.50
全体	3.82	3.79	3.84	4.00

(4) 図書館のメールマガジン (N=298)

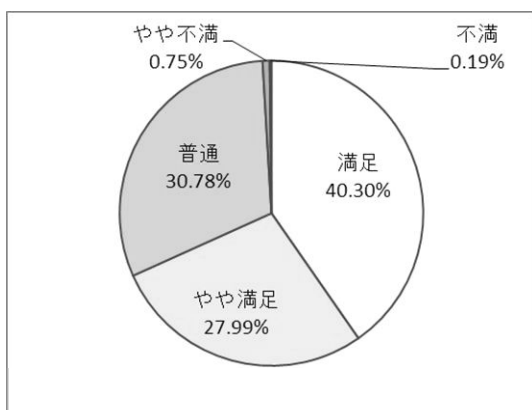


評価点は3.72となった。若い年齢層に比較し、高い年齢層で低い。百分率では、約48%が「満足」又は「やや満足」と回答し、「普通」とする回答がこれを上回る約49%となった。「やや不満」及び「不満」を感じている回答者は約2%と少ない。強く「満足」「不満」を感じる要素は少ないものの、高い年齢層ではやや物足りなさを感じる回答者が多いことが窺える。

なお、「不満」の理由として、「自分にとって必要のない情報が多い。イベント情報がどこの館のものか分かりにくい(50代女性)」とする意見があった。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.18	4.11	4.25	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.20	4.33	4.00	0.00
20代	4.20	0.00	4.20	0.00
30代	3.89	3.85	3.96	3.00
40代	3.72	4.00	3.64	0.00
50代	3.51	3.35	3.57	0.00
60代	3.59	3.64	3.48	5.00
70歳以上	3.71	3.67	3.85	3.00
未回答	4.67	0.00	5.00	4.50
全体	3.72	3.73	3.71	4.00

(5) 子供向けのサービス（おはなし会、ブックスタート等） (N=536)



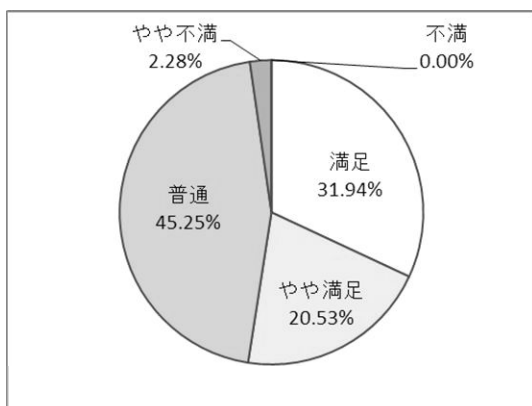
評価点は 4.07 となった。30代、40代の子育て世代からの評価が高い。また、自らが当事者として児童サービスを体験してきたと推定される10代以下の年齢層からの評価点も高い。

百分率では、「満足」及び「やや満足」の回答が約 68% であり、「不満」及び「やや不満」は 1% に満たない。子育て世代の年齢層を中心として、回答者は概ね満足しているものと考えられる。

なお、「不満」の理由として、「おはなし会の絵本が小さいのでよく見えない（40代女性）」「おはなし会は平日の早い時間なので、フルタイムで働いていると参加できない（30代女性）」等が挙げられた。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.30	4.13	4.37	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.21	3.88	4.67	0.00
20代	4.18	4.00	4.20	0.00
30代	4.21	4.39	4.18	4.00
40代	4.18	4.13	4.18	5.00
50代	3.87	3.38	3.98	0.00
60代	3.78	3.80	3.76	4.00
70歳以上	3.82	3.58	4.21	3.00
未回答	4.33	0.00	3.50	4.75
全体	4.07	3.88	4.12	4.30

(6) 視覚障がいのある人に対するサービス（録音・点字図書の貸出等） (N=263)



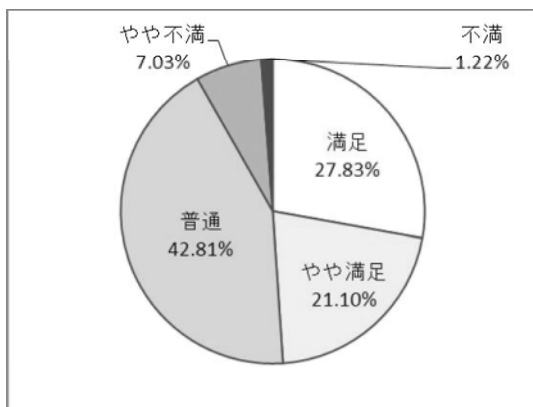
評価点は 3.82 となった。高い年齢層と比較し、若い年齢層の評価点が高い傾向がある。

百分率では、「満足」及び「やや満足」の回答が約 52% であり、約 45% が「普通」と回答している。「やや不満」が約 2% あるが、「不満」の回答はなかった。「満足」を感じている回答者と「普通」と感じる回答者が同程度の割合であり、高い年齢層の回答者はやや物足りなさも感じていることが窺える。

なお、やや不満を感じる要因として、「(各地区館で) デイジー図書を借りられたらうれしい (40代女性)」との意見があった。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.43	4.00	4.75	0.00
10代(中学生以下を除く)	4.54	4.63	4.40	0.00
20代	4.00	3.00	4.33	0.00
30代	3.71	3.83	3.65	0.00
40代	3.85	3.90	3.84	0.00
50代	3.56	3.00	3.68	0.00
60代	3.75	3.71	3.74	5.00
70歳以上	3.69	3.73	3.69	3.00
未回答	4.17	0.00	3.67	4.67
全体	3.82	3.79	3.82	4.40

(7) 外国語資料の提供 (外国語資料・英語多読コーナー等) (N=327)



評価点は 3.67 となった。百分率は、「満足」及び「やや満足」の回答が約 49%である一方、「不満」及び「やや不満」の回答も約 8%あった。「満足」を感じている回答者と「普通」と感じる回答者が同程度の割合であり、回答者はやや物足りなさも感じていることが窺える。

なお、「不満」の理由として、「外国語文学の本が少ない。初等レベルのものからオリジナルまで用意してほしい (60代男性)」「中国語、韓国語の資料も増やしてほしい (20代女性)」「外国に行っても困らない、簡単に日常生活に役立つ本が欲しい (10代女性)」等が挙げられた。

性別区分 年齢区分	全体	男性	女性	性別 未回答
中学生以下	4.35	4.00	4.55	0.00
10代(中学生以下を除く)	3.60	3.90	3.00	0.00
20代	3.92	3.75	4.00	0.00
30代	3.64	4.07	3.57	2.00
40代	3.76	3.81	3.75	0.00
50代	3.34	3.36	3.34	0.00
60代	3.63	3.68	3.52	5.00
70歳以上	3.67	3.59	3.83	3.00
未回答	4.25	0.00	3.00	4.67
全体	3.67	3.73	3.64	3.71

【自由記述欄 (主な意見)】

①開館時間について (26件)	これまで休館日削減や開館時間の延長に取り組んで来ているが、さらなる開館日の増や開館時間の延長を希望する声もある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日・開館時間が利用しやすく、本の予約もしやすい ・7、8月は休みをなくして読書の機会を増やすべき ・もう少し遅くまで開けてほしい
②蔵書について (117件)	書籍、AV資料ともに、より新しい資料をより多くという要望が多い。また、大活字本や外国語資料など、高齢化や地域性に伴う意見も寄せられた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい本をもっと増やしてほしい。DVD、CDが古すぎる ・リクエストが通らない。リクエストの合否が分かりづらい ・大きい活字の本を増やしてほしい。外国語の資料を増やしてほしい
③施設・設備について (64件)	館により設備の設置状況や劣化具合が異なるため、意見は館ごとに多様となる。個人が集中して閲覧・学習できる空間を求める声とともに、交流の場やくつろぎのスペースを期待する声も多い。
	<ul style="list-style-type: none"> ・他市の図書館はソファがたくさんありくつろいで読書できる ・声を出して読み聞かせをしてもよいスペースがあるとよい ・インターネットで検索して学習できる場をほしい
④Webサービスについて (23件)	寄せられた意見の数が少ないながらも、満足している様子が窺えるコメントが多い。一方で、使い勝手の改善を望む声もある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット予約は大変便利である ・スマホ用のホームページを作ってほしい ・検索の精度を改善してほしい

⑤窓口サービスについて (97件)	<p>接遇態度や取寄せの利便性などを評価する声が多かった。ただし、対応については職員の個人差を感じている回答者もいる。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・スーパー等に貸出窓口があると助かる ・スタッフの対応が親切で居心地がいい ・レファレンスでの的確な回答、親身な対応がありがたい
⑥事業について (45件)	<p>指定管理館が実施する企画展や講座など多彩な自主事業に満足している声が多い。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ展示を楽しみにしている。知らない本を読むきっかけになる ・興味をそそられる講座がたくさんあってよい ・学術や文化の面でもっと専門的になってほしい
⑦図書館を利用して得られた成果 (48件)	<p>自らの学習や業務に利用している方、子供の学習に活用している方などから、多様な成果が寄せられた。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の作文が上手になった。思っていることを言葉で表現することができるようになった ・的確なレファレンスサービスで講義の資料を集められる ・英語多読を始めて、100万語を超えた
⑧その他 (68件)	<ul style="list-style-type: none"> ・窓口に季節ごとに折り紙や切り絵が飾ってあり楽しい。ちょっとした気遣いを続けてほしい ・読書は日常生活の楽しみの一つ。身近に図書館があることはありがたい ・将来司書になりたい。ここで働きたい

③ ≪平成 29 年度『市民への約束』評価月間アンケート調査結果≫

1 調査目的

接遇に係る市民満足度向上のための本市の取組について、成果を施設利用者等に評価いただく

2 調査実施概要

- (1)調査対象 図書館利用者
- (2)調査方法 各図書館窓口にて調査票を配布、回収箱により回収
- (3)調査期間 平成 29 年 11 月 1 日～11 月 30 日

3 回収状況 有効回答 1,268 件

(市役所すべての窓口で実施した調査の内、各図書館窓口のみの計)

	質問事項	評価点
1	窓口や待合場所・通路など施設は、整理整頓されていきましたか？	4.46
2	訪問に早く気づき、笑顔で明るいあいさつでしたか？	4.42
3	服装や頭髪など身だしなみは、公務にふさわしいものでしたか？	4.48
4	お客様の用件に速やかに対応していましたか？	4.50
5	お客様の状況に柔軟に対応していましたか？	4.47
6	わかりやすく納得できる説明でしたか？	4.44
7	親切で丁寧な対応でしたか？	4.52
	合計平均	4.47

【自由記述欄への意見・要望等（抜粋）】

- ・高齢の母のために本を借りている。大型活字本が多いとありがたい
- ・正規の司書を増やし、「本＝文化」を守る体制を維持してほしい
- ・40代のためのサポートステーションを作してほしい
- ・おはなしのへやを開放しているのはありがたい。赤ちゃん連れの親がリラックスできる場所である
- ・子供の本コンシェルジュをほしい。子供ブッククラブ（読書会）を主催してほしい
- ・スマホに図書館アプリを入れて、本を借りられるようにしてほしい
- ・情報を得る場所から人間性の成長の場へ、蔵書スペースを減らしてリラックスしながら個々の能力を伸ばす場所へと、IoTの進化により図書館の役割は今後大幅に変化する
- ・検索システムの操作性が悪い
- ・新刊をもっと入れてほしい。ビジネスを強化してほしい
- ・障がいのある人への気配りをして欲しい
- ・パソコンの導入をお願いしたい
- ・ゆっくりできるコーナー、飲食コーナーをほしい
- ・勉強できる場所をもっと増やしてほしい
- ・新刊予約本の待ち時間が長い

4 市民ワークショップ記録

『いっしょに考えませんか？図書館の“未来”』

2017年（平成29年）

- ◆7月2日（日） 午後1時30分～4時45分《中央図書館》
講演会＋ワークショップ ①「“私たち”がほしい図書館」

- ◆7月23日（日） 午後1時30分～4時30分《二俣協働センター》
ワークショップ ②「中山間地域×図書館の未来」

- ◆8月27日（日） 午後1時30分～4時30分《中央図書館》
ワークショップ ③「まち×図書館の未来」

- ◆9月24日（日） 午後1時30分～4時30分《中央図書館》
ワークショップ ④「まとめ：私たちの図書館～未来へつなぐ～」

第1回

- 1 日時：2017年7月2日（日） 午後1時30分～4時45分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：講演会 55人、ワークショップ 28人
（ワークショップ参加者内訳：一般 15人、大学生 11人、高校生 2人）
- 4 内容：《第1部》 午後1時30分～3時
講演会『いっしょに考えませんか？図書館の“未来”』
講師・岡本 真氏（アカデミック・リソース・ガイド株式会社代表取締役）
《第2部》 午後3時15分～4時45分
ワークショップ『“私たち”がほしい図書館』
・数班に分かれてのグループワーク、全体発表、講評

講演では、“人生の全てをサポートできる”という公共図書館の可能性と、近年の特長的な取組みが紹介された。図書館が持つ基本的な機能である「情報・知識へのアクセス」を住民にしっかりと保障しつつ、新たな機能として、『共創の場』『賑わいの場』『MLA連携の場』『課題発見・解決の場』としての図書館を、市民協働により創り上げていく必要性があるとの内容であった。

講演に続くワークショップでは、『“私”がほしい図書館』という“要望”の訴えではなく、『“私たち”がほしい図書館』とは何かを、世代や立場を超えて話し合い、考えていった。

話し合いの中では、図書館に「親しみやすさ」を求める声が多数あげられた。特に子育て世代は、静寂が求められる図書館を子連れで気兼ねなく利用することが難しいと感じているため、**気軽に来館できる環境作り**が求められている。

また、利用者同士が「つながる」場としての図書館を求める声も多かった。同じ関心事や悩み事を持つ人同士、逆に全く接点を持たない人同士が出会い、**交流が生まれる場**としての役割である。

一方で、図書館でこそ**静かに集中できる時間**を過ごしたい、と考える人も多く、『**つながらない自由**』として、ひとりでゆったりと過ごせる場所の提供も望まれた。

また、「**司書に相談できる**」「職員とのコミュニケーション」など、「**図書館職員とのつながり**」を求める声もあった。



第2回

- 1 日時：2017年7月23日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：二俣協働センター（天竜区）
- 3 参加数：17人（内訳：一般7人、大学生9人、高校生1人）
- 4 内容：ワークショップ『中山間地域×図書館の未来』
 - ①第1回ワークショップの振り返り
 - ②会場を起点に周辺の「まち歩き」
 - ③マップ作成、グループごとに発表

第1回ワークショップで話し合った内容を再確認した後、地元在住者とそれ以外の人とが混在するグループを作り、以下の点を意識しながらグループごとに「まち歩き」を行った。

- ・このまちの魅力は何だろう？それを図書館に取り入れられるか？
- ・前回の話し合いの中で出された『私たちがほしい』図書館の機能は、図書館以外の場所にあるだろうか？
- ・このまちの課題はなんだろう？それを図書館が解決できるか？
- ・まちと図書館がつながるには、どうしたらいいだろう？

「まち歩き」の後は会場に戻り、グループ内でそれぞれの場所を思い出しながら、気付いたことや感じたことを話し合った。話し合った内容は付箋に書きこみ、写真と共に白地図に貼ってマップを作成した。



第3回

- 1 日時：2017年8月27日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：12人（内訳：一般10人、大学生2人）
- 4 内容：ワークショップ『まち×図書館の未来』
 - ①前回までのワークショップの振り返り
 - ②会場を起点に周辺の「まち歩き」
 - ③マップ作成、グループごとに発表

第1回及び第2回ワークショップの振り返りを行い、『“私たち”がほしい図書館』を念頭におきながら、中央図書館を起点に「まち歩き」を行った。

「まち歩き」後の話し合いでは、前回よりも一歩踏み込んだ議論が行われた。

第2回、第3回の「まち歩き」を通じ、これまで気がつかなかった自分たちのまちの魅力を再発見した、という声が多くあがった。そのうえで、「ほしいと思っていた機能はすでにまちにあった。それをいかすべきではないか」「ほしいものすべてを図書館に集約する方が良いのだろうか」「まちと図書館がつながるにはどうしたらいいだろうか」など、ただ図書館に多くの機能を求めるのではなく、自分たちの暮らすまちとの関わりの中で図書館の役割を考える機会となった。

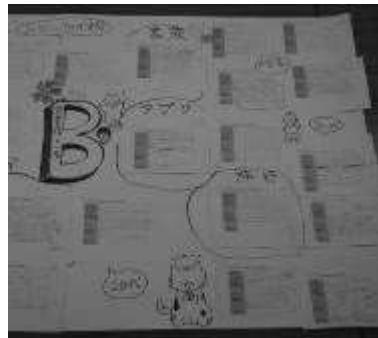


第4回

- 1 日時：2017年9月24日（日） 午後1時30分～4時30分
- 2 会場：中央図書館
- 3 参加数：17人（内訳：一般8人、大学生9人）
- 4 内容：ワークショップ『まとめ：私たちの図書館～未来へつなぐ～』
 - ①前回までのワークショップの振り返り
 - ②ストーリーボード作成、グループごとに発表、講評

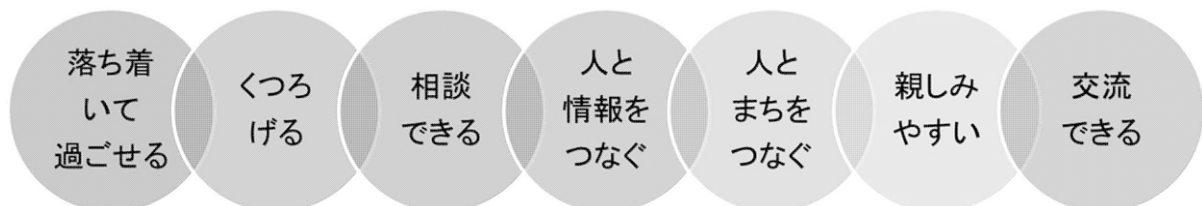
前回までのワークショップの中で生まれた“気付き”を、参加者が自分の言葉で語り合った。そして、それまで考えてきた『“私たち”がほしい図書館』が実現した世界のストーリーボードを作成した。

「①どんな人？（年齢、職業など）」と「②その人の背景（悩み、関心など）」を設定し、「図書館にどんな役割・機能があれば、その人は図書館を活用するだろうか？どんなふう
に利用するだろうか？」と、自分以外の＜私たち＞に対する想像力を膨らませ、様々な年齢、社会的背景、関心、悩みを持つ人々が、図書館を利用することで人生を少しずつ豊かにしていく姿が描かれていった。



市民ワークショップ（全4回）まとめ

～ “私たち” がほしい図書館は～



5 図書館協議会

任期：平成 29 年 7 月 1 日～平成 31 年 6 月 30 日

浜松市立図書館協議会委員名簿

No.	選出	氏名	肩書・経歴等
1	学識経験者	酒井 勇治	元浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授
2	学識経験者	小杉 大輔	静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科准教授
3	家庭教育関係者	石野 純子	浜松学院大学現代コミュニケーション学部准教授 元浜松市立中瀬幼稚園園長
4	社会教育関係者	天野 真幸	浜松青年会議所副理事長
5	社会教育関係者	中村 憲右	浜松読書文化協力会会長
6	社会教育関係者	新貝 富美子	元かたりべの会会長
7	社会教育関係者	屋名池 倫子	浜松市PTA連絡協議会広報委員長
8	学校教育関係者	渥美 岳博	元浜松市教育研究会学校図書館研究部長

≪「浜松市図書館ビジョン」策定に係る図書館協議会の開催経過≫

- 平成 29 年 11 月 2 日 平成 29 年度第 2 回会議後、概要の報告
- 平成 30 年 3 月 22 日 平成 29 年度第 3 回会議にて原案の審議

浜松市図書館ビジョン

2018年（平成30年） 月

浜 松 市
中央図書館

〒430-0947 浜松市中区松城町 214 番地の 21

TEL 053-456-0234 FAX 053-453-2324

ホームページ URL <http://www.lib-city-hamamatsu.jp/>

パブリック・コメント意見提出様式

～あなたのご意見をお待ちしています～

ご住所 (所在地)	
お名前 (法人名・団体名)	
電話番号	
案の名称	浜松市図書館ビジョン (案)
意見募集期間	平成30年6月15日 (金) ～平成30年7月17日 (火)
意見欄	

- ・この様式は参考です。任意の様式でも提出していただくことができますが、その場合でも、上記と同様の内容について記入をお願いします。
- ・この様式は、市ホームページからもダウンロードできます。

【提出先】 中央図書館あて

住所 : 〒430-0947 浜松市中区松城町214-21

FAX : 053-453-2324

E-mail : chuo@city.hamamatsu.shizuoka.jp

～どうやって意見を書いたらいいの？～

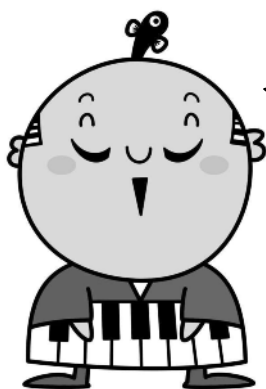
「もっとこうしたらどうか」「もっとこうしてほしい」など、計画や条例の案を見て思ったこと、感じたことを箇条書きや文章にまとめてください。

どうやって書いたらいいかわからない場合には、以下の書き方例を参考にしてみてください。

<書き方例>

- ページにある「〇〇〇〇」という言葉は分かりにくいので、「□□□□」に変えてはどうでしょうか。
- ページの「△△△△」については、「■■■■■■」という内容を追加したほうがよい。その理由は……だからである。
- ページに書いてある目標件数ですが、「〇〇件」では少ないので、「□□件」にすべきだと思う。
- ページの「△△△△」という文章は具体的にどういう意味なのか。また、専門用語が多く使われているので、計画の中に用語解説をつけるべき。

出世大名
家康くん



©浜松市

皆さんからの
ご意見を
お待ちしております
おるのじゃ！



区協議会の開催日程（6月）について

このことについて、次のとおり区協議会が開催されますのでお知らせします。

協議会名	回数	日時	場所	会議内容(予定)	傍聴定員	問合せ先
中区協議会	第3回	6月27日 (水) 16:00～	浜松市役所 北館1階 101会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・(報告)平成30年度予算にかかる区重点提案事業の結果について ・その他	10人程度 (先着順)	中区役所 区振興課 TEL:457-2210
東区協議会	第3回	6月29日 (金) 13:30～	東区役所 3階 31・32会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・地域課題について ・その他	10人程度 (先着順)	東区役所 区振興課 TEL:424-0115
西区協議会	第3回	6月27日 (水) 13:30～	西区役所 3階 大会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・地域課題について ・その他	5人程度 (先着順)	西区役所 区振興課 TEL:597-1112
南区協議会	第3回	6月27日 (水) 13:30～	南区役所 3階 大会議室	・(諮問)市営住宅の一部廃止について(新橋団地及び遠州浜団地の一部) ・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・地域課題について ・その他	5人程度 (先着順)	南区役所 区振興課 TEL:425-1120
北区協議会	第3回	6月28日 (木) 13:30～	北区役所 3階 31・32会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・地域の情報等について ・その他	5人程度 (先着順)	北区役所 区振興課 TEL:523-1168
浜北区協議会	第3回	6月21日 (木) 13:30～	浜北区役所 3階 大会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・(協議)浜北区平スポーツ施設ネーミングライツパートナーの公募について ・地域課題について ・その他	10人程度 (先着順)	浜北区役所 区振興課 TEL:585-1141
天竜区協議会	第3回	6月27日 (水) 14:00～	天竜区役所 2階 21・22会議室	・(協議)浜松市図書館ビジョン(案)パブリックコメントの実施について ・(協議)浜松市龍山雲折プールの休止について ・地域課題について ・その他	5人程度 (先着順)	天竜区役所 区振興課 TEL:922-0013

市民部 市民協働・地域政策課 担当：増田
TEL 457-2094

第1回交通安全委員会 議事概要

日 時 平成30年6月14日(木) 10:00~11:30

会 場 東区役所 33会議室

出席者 大軒 孝幸、齋藤 國弘、齋藤 宣男、佐藤 公治、田中 充

(50音順・敬称略)

事務局 鈴木 勝久、梅尾 友里奈(東区振興課)

1 東区の交通安全の現状について

(東区振興課鈴木G長から説明)

- ・本市は依然として、人口10万人あたりの人身事故件数(政令市)ワースト1、東区は県内ワースト1であるが、事故件数等は年々減少してきている。H29の東区における人身事故件数は、H26年から約14%減少しており、市全体の減少率を上回っている。
- ・事故原因の内訳を見ても、追突や出会い頭が全体の7割以上、法令違反別では、動静注視や安全確認が全体の5割を占めている。見通しの悪い交差点や歩道を横切るときなどは、しっかり安全確認をする必要がある。
- ・時間帯別では、全体的に減少しているが夜間の件数が多く減っている。引き続き、夜間時における交通安全啓発活動にご協力いただければと思う。

2 協議テーマの選定について

「イエローストップ運動の推進」

3 平成30年度の活動方針について

- ・平成29年度に行った「敬老会での交通安全チラシ配布」「各期交通安全運動街頭広報への参加」「東区交通安全フェアへの参加」「交通事故多発交差点の視察」については、今年度も継続していく予定。

4 交通安全指導員による交通教室

- ・交通安全用語をクイズ形式で考え、一時停止や安全確認などの交通ルールの再確認を行った。

次回開催日 7月17日(火) 午前10時~ 東区役所3階33会議室



浜松東署管内の交通事故日報

1 発生状況

(平成30年 5月31日分)

区分	当日			当月累計			当年累計		
	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者
当年	3		3	213		282	1,060	2	1,396
増減	-4		-5	-7		-31	-19	-1	-42
率	-57.1		-62.5	-3.2		-9.9	-1.8	-33.3	-2.9

2 路線別

区分	当日			当月累計			当年累計			
	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	増減	死者	傷者
国道				40		52	216	2	1	286
主要地方道				21		25	85	-5		103
一般県道	1		1	21		28	128	-2		160
市町村道	1		1	113		156	557	-24	1	754
その他	1		1	18		21	74	10		93

3 市区町別

区分	当月累計			当年累計					
	件数	死者	傷者	件数	増減	死者	増減	傷者	増減
浜松市									
中区	15		17	85	-5			105	-10
東区	127		169	630	-7	1	-1	820	-20
南区	71		96	345	-7	1		471	-12

4 当事者別件数 (第1当)

区分	当日	当月	当年	増減数
大型車		5	18	6
中型車		6	17	2
準中型車			19	5
普通車	3	184	931	-40
二輪車		9	36	
白転車		9	31	4
歩行者				
その他				

注：不明は除く

5 居住地別件数 (第1当)

区分	当日	当月	当年	増減数
管内	2	111	549	-9
管内		85	431	-1
管外	1	10	47	-4

注：不明は除く

6 年齢別件数 (第1当)

区分	当日	当月	当年	増減数
15歳以下		2	6	1
16～19歳		13	44	-4
20～24歳		25	118	-25
25～29歳	1	23	106	1
30～39歳		39	183	3
40～49歳	1	37	201	8
50～59歳		29	150	15
60～64歳		6	54	-3
65歳以上	1	39	190	-19
不明			8	4

7 事故類型別件数

区分	当日	当月	当年	増減数
対(背)面通行中		2	6	-1
横断中		2	10	-5
横断歩道				
その他		3	17	2
その他		1	19	8
小計		8	52	4
正面衝突			5	-3
追突		89	430	-15
出合頭	3	73	347	7
追越すれ違い時			8	
その他		14	91	-7
右左折時				
その他		27	102	6
小計	3	203	983	-12
車両単独		2	25	-11
踏切				
合	3	213	1,060	-19

8 各種事故別

区分	当日累計			当月累計			当年累計					
	件数	死者	傷者	件数	死者	傷者	件数	増減	死者	増減	傷者	増減
幼児				3		3	13	-12			13	-14
園児				3		3	12	-2			14	-3
小学生				10		12	38	2			46	7
中学生				3		3	18	6			18	6
高校生				7		7	45	-11			42	-15
高齢者	1			69		40	298	-16			174	2
高齢運転	1		1	39		48	187	-19	1		243	-30
歩行者				8		8	52	4			53	5
自転車	1		1	32		32	137	-18			133	-19
原付車				15		20	71	19		-1	82	27
自二車				9		10	58	-15		-2	63	-15
ヤング				33		42	150	-28			203	-47
若者起因	1		1	56		75	255	-27			332	-61
初心者				12		19	40	-3			52	-7
無免許				1		1	4	3			4	1
飲酒				2		4	5	2	1	1	6	2
交差点	2		2	76		104	425	-11	2		563	18

平成 30 年度 第 1 回東区協議会地域防災委員会 活動報告

開催日 平成 30 年 6 月 19 日 (火) 午前 9 時 30 分から

開催場所 東区役所 31 会議室

出席者 河合 洋子委員、河合 よしの委員、小池 太江子委員、鈴木 洋次委員、
藤田 昌良委員、村木 克郎委員、森 和彦委員

事務局 井田 正人、吉垣 幸和、長谷川 光洋、枝窪 圭人、杉森 保雄

1 議事

(1) 地域防災委員会委員長の選出について

委員による話し合いの結果、以下の通り決定した。

- ・委員長：森 和彦委員 職務代理：村木 克郎委員

(2) 防災委員会の年間計画について

事務局より昨年度の活動内容や過去の協議テーマについて説明し、今年度の計画やテーマについて意見を伺った。

- ・日用品を防災グッズとして活用する方法や、応急処置法について学びたい。
- ・テーマや計画を考えるため、東区の防災課題や災害特性を把握したい。
- ・大阪の地震で家具転倒に伴う被害があったが、家具転倒防止の更なる啓発が必要になるのではないかと。市民ホールでの啓発品展示等、計画してみてもどうか。
- ・市は仮設トイレや飲料水をどの程度備蓄しているのか知りたい。また市は給水車を保有しているのか。
- ・福祉避難所は竜西荘と聞いているが間違いないか。また災害時、どのような対応となっているのか。
- ・防潮堤工事が進んでいるが、天竜川の遡上等の影響はないのか。
- ・防災担当と小中学校の教員とで避難所の話し合いをする必要があるのではないかと。

(事務局)

様々な意見をいただいたが、次回は今後の計画やテーマ策定に向け、東区の災害特性や市の防災体制の説明を行うこととする。

(3) 区振興課の防災業務について

事務局から区振興課で行っている防災業務の説明を行った。

2 次回開催予定について

日時 平成 30 年 7 月 19 日 (木) 午前 9 時 30 分から

会場 東区役所 32 会議室

第1回地域福祉委員会 議事概要

日 時 平成30年6月11日（月）13:30～14:25

会 場 東区役所3階 33会議室

出席者 石津幸子、熊岡邑子、杉本ともえ、鈴木祐一、高井昭、村松信子（50音順・敬称略）
中野一宏 社会福祉課長、鈴木教郎 長寿保険課長、飯田成美 健康づくり課長補佐

事務局 吉垣幸和

1 議事

○委員長、職務代理者の選任について

- ・委員による話し合いの結果、以下の通り決定した。

委員長：熊岡 邑子委員 職務代理：高井 昭委員

○今年度の協議テーマについて

- ・事務局より昨年度の活動内容や過去の協議テーマについて説明し、今年度の協議テーマについて話し合った。

【協議テーマ】

「高齢者を取り巻く環境について」

高齢者を取り巻く環境は、病院や買い物するために必要となる交通手段を中心として厳しい状況にある。今年度は、市関係課の業務について説明を受け、確認するとともに各委員が感じている、若しくは、課題として抱えている状況について相互に情報を出し合いながらテーマについて検討していく。

○今後（次回）の予定について

- ・次回は、長寿保険課の担当業務について説明を受け、意見交換を行う。

2 その他

【次回開催】

日時：平成30年7月30日（月） 13時30分から

会場：東区役所3階 33会議室

あれ?

?!

まさか!?

これって 子ども虐待ですか

監修 松原康雄(明治学院大学 社会学部社会福祉学科 教授)

子ども虐待の多くは、
「悪いことをしている」という
認識がないまま起こっています。
確証がなくても、
あなたが「あれ!」「まさか!？」と感じたら、
相談や通告をしましょう。



オレンジリボン
は
児童虐待防止の
シンボルです。

児童相談所
全国共通
ダイヤル

いち はや く
1 8 9

発信元の市内局番などから管轄の児童相談所につながります。

浜 松 市

「子ども虐待」を知っていますか？

子ども虐待は大きく4つに分けられますが、これらが重複して起きていることが少なくありません。

身体的虐待

- 首を絞める、殴る、蹴る、投げ落とすなどの暴力
- 逆さづりにする
- やけどをさせる
- 溺れさせる
- 冬に戸外に閉め出す
- 意図的に子どもを病気にさせるなど



ネグレクト(養育保護義務の拒否・怠慢)

- 適切な衣食住の世話をしない
- 家に閉じ込める(学校に登校させないなど)
- 医療ネグレクト(病気になっても病院へ連れて行かないなど)
- 子どもを家や車中に長時間放置する
- 子どもの情緒的欲求を無視する(愛情遮断など)
- 同居人の虐待の放置など



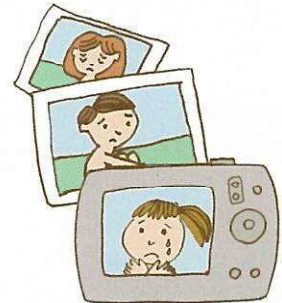
心理的虐待

- 大声や言葉による脅かし、脅迫など
- 子どもの心を傷つけることを言う
- 子どもを無視したり、拒否したりする
- 他のきょうだいと著しく差別的な扱いをする
- 子どもの前で配偶者などにDV(暴力、暴言、無視など)をするなど



性的虐待

- 性的ないたづらを強要・教唆する
- 性的関係を強要する
- 性器や性交を見せる
- ポルノグラフィーの被写体にするなど



「しつけ」のつもりで虐待になっていませんか？

しつけとは、子どもに社会性を持たせ、自立させるために行う家庭内での教育のことです。

大人の都合や期待を押しつけ、体罰や言葉で責めたてて従わせることはもちろん、発達段階を無視した早期教育などの不適切な行為は、「しつけのつもり」でも、子どもにとって有害ならば「虐待」になります。そして、どのような理由があっても、それらの行為が正当化されることはありません。



虐待が子どもに与える影響とは？

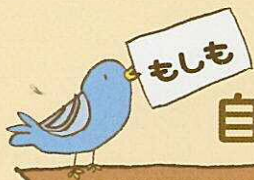
虐待は、子どもの心身の成長や人格形成に重大な影響を与えるだけでなく、次の世代にも虐待を起こすおそれがあります。

言葉や、学習の遅れなど
発達への影響

後遺症、低身長・
低体重、栄養不良など
体への影響

情緒不安定、自己否定感、
強い不安感など
心への影響

暴力性、自傷行為、
対人関係の形成など
行動への影響

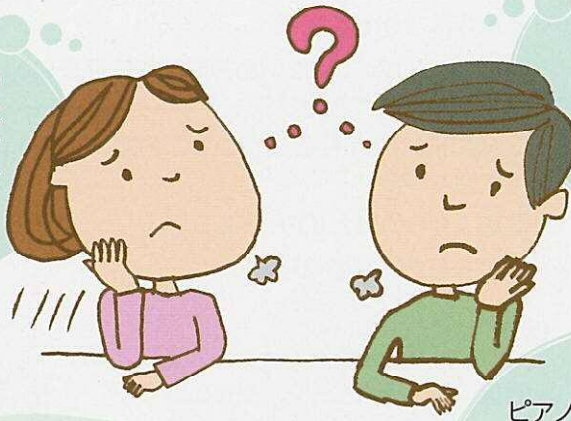


自分が

『虐待している?』

と思ったら…

だっこしてもミルクをあげようとしても泣き止まない子どもにイラつき、無視して家事をしていたことがあるけど、これって虐待?

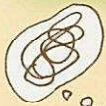


子どもが机に落書きをしたので、子どもの手をたたきました。子どもは泣きましたが、体で覚えないとわからないし、自分もそうやって育てられましたから。

子どもは、ただあなたを愛し、愛されたいのです。それはあなたも同じではありませんか？感情にまかせてたたいたり、ののしったりしたことを後悔し、自分を責めている人は少なくありません。

ピアノを習い始めました。練習を嫌がったり、同じところで間違えるので、ついどなったり、否定的な叱責をしてしまいます。でも、私は子どものことを思って…。

あなたの気持ちをわかってくれる人たちがいます



子どものことや職場・家庭のトラブルからくるストレスや不安感がもととなり、子どもを必要以上に叱ったり、たたいたりしてしまうことがあります。まずは、その心の苦しさを、理解してくれる人に話すことが大切です。

あなたの話を決めつけたりせずに聞いてくれます



気持ちを話してみよう

子どもに虐待をしたと感じることがあり、続けてしまうのではと不安になる

「ちょっと助けてほしい」と言えず、自分ですべてやらなければいけない気がする

子どもをかわいと思うことができず、いっしょにいるのがつらい

イライラすると子どもにひどいことを言うてしまう。母親失格では?

ほかの子よりできるようになることが遅く、自分の育て方が悪いと思ってしまう

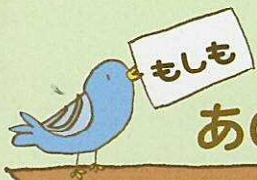


会って話すのはちょっと苦手だし面倒…

一人で抱え込まないで地域の電話相談や、ホットラインに電話をかけてみませんか?



連絡先は裏表紙へ



あの子は『虐待されている?』

と思ったら…

向かいのアパートから母親のどなり声と、泣いている子どもの声が聞こえてきて、もしかしたら虐待かもしれないけど…。違うかもしれないしやっかいなことに関わりたくないわよね。



子どもが何かいたずらをしたみたいで、そこまで怒らなくても思うくらいお父さんが子どもをしつく叱っていたわ。どうかと思ったけどよその家庭のことに口をはさむのも…。

虐待の確信はなくても、虐待の疑いがあった場合、あなたはどうしますか？

国民には通告する義務があります。通告とは、お住まいの市区町村の児童福祉課や福祉事務所、児童相談所に「念のため調査してください」と連絡することです。

まだ小さい子が、暗くなってから一人で玄関先に座っていることが多いのよ。無表情だし、食事とか服とかお世話されていないみたいでかわいそうに思うけどご近所だし、私が通告したってバレたら、ねえ。

「もしかして…」を通告するのは、すべての国民の義務です

匿名の通告でも受け付けられます

虐待の現場を見ていなくても構いません

こんなときは
すぐに
110を!

子どもの命に関わる、もしくは障害を残す危険があるなど、早急に保護をする必要がある場合は、警察へ通報しましょう。



- 夜遅くに、幼児が一人で外にいる
- 異常などなり声や叫び声、物音、激しい泣き声が聞こえてくる
- 子どもがひどいケガをしている

手遅れになる前に
迷わず相談・通告を!

児童相談所
全国共通
ダイヤル

いち はや く
1 8 9
番へ

発信元の市内局番などから管轄の児童相談所につながります。

通告後

原則48時間以内に訪問し、子どもの安否確認を行います。調査員は虐待と決めつけずに慎重に調査をして対応します。

間違いでも

通告者に責任や罰則はありません

虐待があっても

通告者の情報を知らせることは絶対にありません

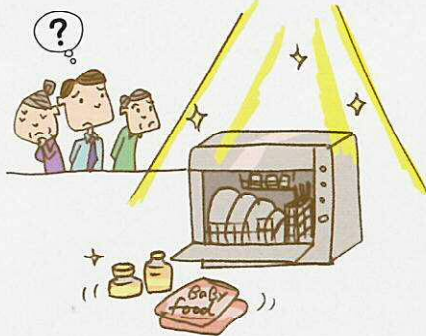


裏表紙へ

虐待の根底には「育児不安」や「ストレス」があります

！ おもな虐待者は実母が6割を占めています

昔に比べ、家事や育児が楽になるような家電やグッズが増えましたが、多くの母親は「子育てが辛い」と感じています。乳幼児期の発達から性格、対人関係など、さまざまな不安や課題を抱え、悩んでいます。



しかも、唯一頼れるパートナーは、家から遠い職場で長時間働き、子育てに参加できていません。母親に本当に必要な「子育てをサポートする人の手」が届かず、不安やストレスのはけ口が子どもに向けられることがあるのです。



職場での
トラブル

過去に虐待を
受けていた
経験

パートナーの
子育て不参加

核家族化による
親族や地域社会
からの孤立

自分の
生活時間がなく
未来が見えない

正しい
子育ての方法が
わからない

夫婦関係の
不和や
家庭内暴力

社会経済や
収入が不安定

つらい気持ちを
わかってくれる
人がいない

！ ささいなことがきっかけで虐待は始まります

子育ての不安は、毎日の不安や心配が積み重なってうまれます。不安を抱えたままにしていると、ちょっとしたきっかけで虐待のスイッチが入ってしまうことがあります。また、親の価値観や教育方針から、よかれと思う気持ちがしつけをエスカレートさせてしまい、虐待を起こすこともあります。

好き嫌いが多く、食べさせようと工夫してつくった食事をベエツと吐き出してしまう



ごはんの代わりにお菓子をせがんで、与えるまで泣き止まない



一生懸命
つくったのに！

夫に悩みを聞いてもらいたいが、家にいることが少ない

今日は
子どもとしか
話してあげない...



イライラして体罰や傷つくような言葉を吐き出してしまうように



＊後で後悔するんだけど、気持ちが抑えられないわ

こんな私を
誰か止めて！

そんな自分が嫌になり、そのストレスのはけ口として、さらに子どもへの言葉や暴力がエスカレートする





地域ぐるみで子育てをサポート



子どもや保護者の様子や養育環境の状況から、虐待に気づく要因がいくつかあります。

子どもの状況

- 乳児期の子ども
- 未熟児や障害児
- 何らかの育てにくさを持っている など

子どもの様子

- 不自然なあざや傷がある
- 理由もなく、身長や体重が増えない
- いつも不潔にしている
- 表情が乏しく、笑顔が少ない
- おびえて家に帰りがたがらない
- 人間関係を築けず、孤立している など

保護者の状況

- 望まぬ妊娠・出産
- 若年(特に10代)の妊娠
- 医療につながっていない精神障害や依存症などの疾患
- マタニティブルー、産後うつなどの精神的に不安定な時期
- 同居人からの暴力(DV)がある
- 保護者自身の被虐待経験

保護者の様子

- 親族・地域社会との交流をしない
- 子どもを置いて、外出する
- 性格が攻撃的・衝動的
- 衣食住の世話をしない
- 医療を受けさせない
- 子どもに対して無関心、過干渉
- 夫婦・家族関係の不仲がある

養育環境の状況

- 著しく不衛生な生活環境
- 未婚を含む、サポートのないひとり親家庭
- 経済的困難
- 子連れでの再婚家庭
- 転居を繰り返す
- 健診や予防接種などに参加しない

ただし...

これらの要因が重なることで、虐待は起こりやすくなりますが、あてはまるすべての家庭に虐待が起きているわけではありません。周囲のサポートがあることで、虐待に至らない家庭がほとんどです。

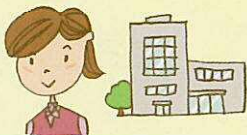
子育てを支える制度やサービス



公的援助やサービスは地域によってさまざま。どんな支援があるのかチェックしてみましょう。

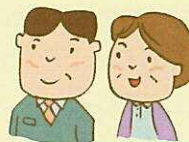
保健所・保健センター

保健師による育児相談や情報提供など



民生委員・児童委員・主任児童委員

育児や福祉に関する相談・援助活動など



児童館・公民館

18歳未満までの子どもの遊び・遊び場の提供など



保育園(所)

一時預かりや公開保育の利用など



児童相談所

児童福祉司などの専門家による相談・サービスなど



地域子育て支援センター

児童相談や子育てサークルの活動支援など



どんなことでも話してみましよう。相談者のプライバシーはしっかり守られます

児童相談所全国共通ダイヤル

TEL 189(いち・はや・く)

発信元の市内局番などから管轄の児童相談所につながります。

全国 子育て・虐待防止ホットライン

TEL 0570-011-077

(ナビダイヤル・10~17時・日祝休)

子ども虐待防止に取り組む民間団体等の電話相談窓口につながります。



第十一回

十湖賞

俳句大会



詳しいイベント情報は
こちらからご覧になれます。



《応募締切》
平成 30 年

《表彰式》
平成 31 年

10月1日(月) 必着 2月11日(月・祝)

浜松市総合産業展示館 北館1号ホール

応募・お問い合わせ先

〒435-8686 浜松市東区流通元町 20 番 3 号 浜松市東区役所区振興課 第十一回「十湖賞」俳句大会係
TEL: 053-424-0115 FAX: 053-424-0131 E-mail: e-shinko@city.hamamatsu.shizuoka.jp

※電話でのお問い合わせ、投句用紙の特参は土日・祝日を除く午前8時30分～午後5時15分

■主催／浜松市東区俳句の里づくり事業実行委員会、浜松市

■後援／静岡県教育委員会、浜松市教育委員会、静岡県俳句協会、中日新聞東海本社、静岡新聞社・静岡放送、FM Haro!、浜松ケーブルテレビ株式会社

「東区・家康公ゆかりの里」推進事業 梓澤要氏歴史講演会について

区民生活課

1 目的

東区は、家康公にゆかりのある名跡等が数多くある。それらの地域資源を活用し、区民の「家康公ゆかりの里」をテーマとしたまちづくりを推進する意識の向上を図るとともに、浜松市シティプロモーション推進方針に上げられている推進テーマ『出世の街 浜松』の事業展開に寄与することを目的とする。

2 事業内容

(1) 「東区・家康公ゆかりの里」推進事業

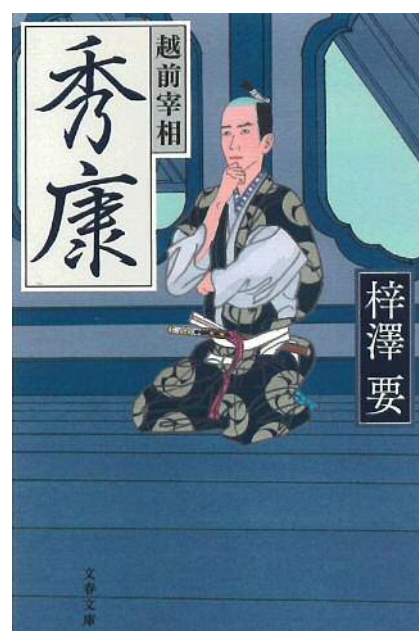
梓澤要氏歴史講演会「結城秀康と父家康一父と子の数奇な運命」

- 講 師： 時代小説家 梓澤要氏
- 日 時： 平成 30 年 7 月 28 日（土）午後 1 時 30 分から午後 3 時（開場午後 1 時）
- 会 場： 浜松市総合産業展示館（北館 1 号ホール）
- 対 象 者： 浜松市内に居住または浜松市内に通勤・通学する人
- 入 場 料： 無料（入場整理券が必要になります、東区役所 3 階区民生活課及び、東区の 5 協働センターで配布します。）
- 定 員： 340 名

3 講師紹介

梓澤 要（あずさわかなめ）氏

1953（昭和 28）年生まれ。静岡県磐田市出身。磐田南高校卒業。明治大学文学部卒業。1993（平成 5）年、『喜娘』で第 18 回歴史文学賞を受賞しデビュー。歴史に対する知的な洞察とドラマ性で、本格派の歴史作家として評価されてきた。執筆の傍ら、東洋大学大学院で仏教学を学ぶ。おもな著書に、『荒仏師 運慶』『越前宰相秀康』『阿修羅』『百枚の定家』『橘 三千代』『万葉恋づくし』『女にこそあれ次郎法師』『捨ててこそ空也』『光の王国一秀衡と西行』最近作『画狂其一』等がある。『捨ててこそ空也』で第 3 回歴史時代作家クラブ作品賞受賞。『荒仏師 運慶』で第 23 回中山義秀文学賞受賞。



「東区・家康公ゆかりの里」

推進事業

歴史講演会

結城秀康と父家康

父と子の数奇な運命

7/28^土

午後1時30分～午後3時(開場午後1時)

浜松市総合産業展示館
北館4階1号ホール
(浜松市東区流通元町20-2)



産業展示館北館の東側および南側駐車場、またはホームセンター東側の第2駐車場(臨時駐車場)へお停めください。駐車場は限りがありますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

秀康

越前宰相



梓澤要

講師

時代小説家

梓澤要

講師プロフィール

梓澤 要(あずさわ かなめ)氏

1953(昭和28)年生まれ。静岡県磐田市出身。磐田南高校卒業。明治大学文学部卒業。1993(平成5)年、『喜娘』で第18回歴史文学賞を受賞しデビュー。歴史に対する知的な洞察とドラマ性で、本格派の歴史作家として評価されてきた。執筆の傍ら、東洋大学大学院で仏教学を学ぶ。おもな著書に、『荒仏師運慶』『越前宰相秀康』『阿修羅』『百枚の定家』『橘三千代』『万葉恋づくし』『女にこそあれ次郎法師』『捨ててこそ空也』『光の王国一秀衛と西行』最近作『画狂其一』等がある。『捨ててこそ空也』で第3回歴史時代作家クラブ賞作品賞受賞。『荒仏師 運慶』で第23回中山義秀文学賞受賞。

お申込み 6月15日(金)午前8時30分から東区区民生活課(東区役所3階)、東区内の各協働センター(天竜・笠井・積志・長上・蒲)で整理券を配布します(土・日・祝日を除く。協働センターのみ土曜日も配布)。1人につき2枚までとさせていただきます。電話でのお申込みは受け付けておりません。

対象 浜松市内に居住または浜松市内に通勤・通学する方